

平成29年度
セント・ピーターズバーグ市派遣
高校生親善研修生報告書

平成29年7月24日(月)～8月3日(木) 11日間



公益
財団
法人

Takamatsu International Association

高松市国際交流協会

日 程 表

高松空港—タンパ空港

日 付		便 名	発着時刻
7/24(月)	出発	高松空港	
			NH532
			7:35
	到着	羽田空港	
			8:55
	出発	羽田空港	
			NH112
		10:50	
到着	シカゴ空港		8:40
出発	シカゴ空港		
		UA397	
		14:05	
到着	タンパ空港【現地お出迎え】		17:55

研修生：7/24(月)から8/2(水) セント・ピーターズバーグ市でホームステイ

引率者：7/24(月)から7/26(水) セント・ピーターズバーグ市内のホテルに宿泊

7/27(木)から8/2(水) セント・ピーターズバーグ市でホームステイ

タンパ空港—高松空港

日 付		便 名	発着時刻
8/2(水)	出発	タンパ空港【現地お見送り】	
			UA588
			6:23
	到着	シカゴ空港	
		8:15	
	出発	シカゴ空港	
		NH11	
		11:50	
8/3(木)	到着	成田空港	
			14:50
		成田空港→羽田空港【リムジンバスで移動】	
	出発	羽田空港	
			NH539
		19:45	
到着	高松空港		21:05

平成 29 年度セント・ピーターズバーグ市親善派遣研修生 滞在日程表

平成29年7月24日(月) – 8月3日(木)

日 時	場 所	内 容
7月24日(月)	高松空港—タンパ空港	<ul style="list-style-type: none"> ・高松空港：出発式 ・シカゴ空港経由でタンパ空港へ ・セント・ピーターズバーグ市役所職員、ホストファミリーのみなさんによる出迎え
7月25日(火)	セント・ピーターズバーグ市役所	<ul style="list-style-type: none"> ・市長表敬 ・議場見学 ・高松市についてのプレゼンテーション
7月26日(水)	トロピカーナフィールド	・タンパベイ・レイズ野球観戦
	市内観光 ジョンズ・パス：海岸にある観光施設	・平成29年度受入親善研修生による市内案内
7月27日(木)	セント・ピーターズバーグ歴史博物館	・館内見学(担当者による解説)
	The Hangar Restaurant	・昼食会
7月28日(金)	セント・ピーターズバーグ商工会議所	・高松市についてのプレゼンテーション
	サンケンガーデンズ	・園内見学
	セント・ピーターズバーグ シャッフルボードクラブ	・シャッフルボード体験
7月29日(土)	現地国際交流委員会メンバー宅	<ul style="list-style-type: none"> ・日本・香川の郷土料理振る舞い ・茶道披露 ・書道披露
7月30日(日)	【ホストファミリーデー】	
7月31日(月)	チフリーコレクション	・ディル・チフリーの作品鑑賞
8月1日(火)	アリ美術館	・サルバドール・ダリの作品鑑賞 (現地連絡員による解説)
	Sunshine Center Auditorium	<ul style="list-style-type: none"> ・SPIFFS【セント・ピーターズバーグ国際民族会】主催の送別会 ・高松市についてのプレゼンテーション ・各国の民族舞踊の鑑賞 ・ポートラックパーティ(世界の料理)
8月2日(水)	タンパ空港	・関係者、ホストファミリーのみなさんによる見送り
8月3日(木)	高松空港	・研修生家族による出迎え



st.petersburg
www.stpete.org

St.Petersburg Photo Gallery 2017



タンパ空港到着



市長表敬



市役所で高松のプレゼンテーション



タンパベイ・レイズ野球観戦



セント・ピーターズバーグ歴史博物館



商工会議所でのプレゼンテーション



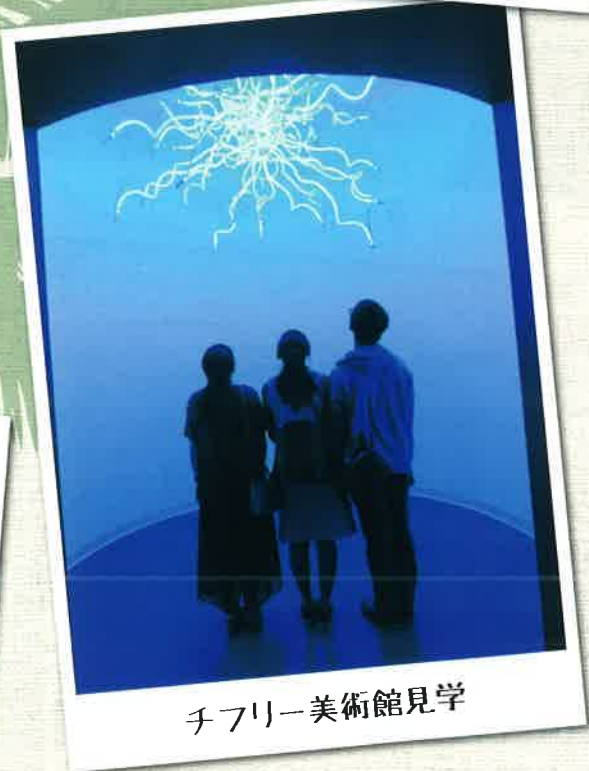
サンケンガーデンズ見学



シャッフルボード体験



日本の食と文化でおもてなし



チフリー美術館見学



ダリ美術館見学



SPIFFS 主催の送別会



ホストファミリーに再会を約束して

引率者感想文

受容と多文化共生、研修生



(公財) 高松市国際交流協会
事務局員 西村 明子

高松からタンパ空港までの長い旅程を経て待っていたのは研修生をあたたかく出迎えてくれるホストファミリーのみなさん、関係者の方の笑顔だった。セント・ピーターズバーグ市との高校生親善研修事業に携わって数年になる今年、実際に引率者として現地に赴くこととなった。親善研修生事業でサポートしてくださっている SPIFFS(セント・ピーターズバーグ国際民族会)のロッタ、現地連絡員のプランタムラゴ夫妻に実際にお会いできたことは大変有意義だった。



SPIFFSのロッタ

セント・ピーターズバーグでは研修生はどこに行っ

ても、現地のみなさんからあたたかい歓迎やおもてなしを受けた。研修生のホストファミリーや高松で交流を深めていたセント・ピーターズバーグの親善研修生は精一杯彼らに様々な体験をしてもらおうと計画を立ててくれていた。引率者である私のホストファミリーでさえも同じであった。そのホスピタリティー精神に驚きと嬉しさを感じた。その精神の背景には地元への愛着と誇りがあるから故なのだと思う。



プランタムラゴ夫妻

今回現地で、親善研修生による高松市についてのプレゼンテーション、香川の郷土料理の振る舞いや茶道、書道の披露など日本文化を紹介する機会を頂いた。どこで何を発表しても研修生は現地の方から質問の集中砲火を受ける。その質問内容はどれも詳細で着眼点もユニークで、そんな質問をされるなんて、と予想だに

していないものが多かった。そのため研修生は毎回困惑しながらも一生懸命にその答えを模索していた。これは彼らにとって有意義な経験になったと思う。

また一方で私が常にその光景を見ながら感じていたことは「自分にそのような質問が出来るであろうか」ということだった。その国のことをより深く知ろうとする姿勢からこの様な質問が生まれてくると思うからだ。ある日、ホストファーザーのジョーが私に「heritage」の意味を知っているか?と聞いた。私は世界遺産等で使う意味でしか知らなかった。「heritage」には先祖、私達のルーツに関することにも使うんだ、私はアイルランド、彼女はベルギーとフランスというようにね、



シェリルとジョー

言うと息子さんの奥さんを見た。先祖からの遺産という意味合いがとてもいいなと思った。移動中の車中でホストマザーのシェリルと何気に政治について話していた時シェリルが、私達は元来、原住民に受け入れて貰えたからこそここに居るのに、今それを拒否するのはフェアじゃないわと言った。シェリルが大統領になったらいいのにねと私が言って、二人でちょっと笑った。短い間のアメリカ滞在であったが、とにかく人々の受容の深さと多文化共生に対する考え方が遥か上にあると痛感した。だがそれを多民族国家だからという言葉で一括りにしてもいいのだろうかとも思う。そのようなことに対面し、考える機会は私達よりは多いかもしれない、でもやはり最後はその人自身なのではないかと私は思う。親善研修生がこの研修を通じて異文化を実際に体験し受け入れ、また自国のことも再認識し、今後の多文化共生に活かして貰えたらと思う。無論、私自身も今まで以上にそのように取り組みたいと思う。

セント・ピーターズバーグ市は空と海の青と植物の緑のコントラストが美しい自然豊かなところであった。大きな木々や広大な海がセント・ピーターズバーグ市のみなさんの寛容さを象徴しているように思えた。



広大な自然

親善研修生 報告書 I

日誌・活動記録

香川県立高松高校 1年 佐光 未帆

7月24日(月)



高松空港にて

ついにこの日がやってきた。こんなにも待ち侘びた7月24日はもう迎えることは生涯ないだろう。高松空港へ着くまでは緊張していたが空港に着き同じ研修生である西坂さんの顔を見ると安心した。それと同時にセント・ピーターズバーグ市でしたいこと、知りたいこと、伝えたいことが頭の中を駆け巡った。落ち着け、もうすぐ出発するのだから、と自分に言い聞かせる。そして手荷物検査場を通り家族に別れを告げ、羽田空港行きの飛行機に乗った。そして無事に羽田空港に到着し、いよいよシカゴ空港行きの飛行機に乗る時が来た。

親善研修生として内定してから長かったようであつという間だったなあと思いつつ、手続きに必要なパスポートを出そうとした。…ない。パスポートはここに入れておこうと決めていた場所にパスポートは入っていなかった。手荷物の中身を全て出して探したが見つからなかった。どうしよう。落としたのか。どこに。そのときなぜか私の頭に“母”という文字が浮かんだ。母が持っているかもしれないと思い電話してみると、持っていた。高松空港での手続きを済ませた後、私が母にパスポートを少しの間持ってもらうように頼んだのだが、そのことを2人とも忘れてしまっていた。この日私はシカゴ空港行きの飛行機に乗れなかった。他の研修生に申し訳ない気持ちでいっぱいだった。私はANAのカウンターで一人今後の対応を待っていた。この時ANAの職員の方々がとても優しく接して下さった。その後旅行会社の担当の方が全力を尽くしてくださり、私は明日、同じ日程で出発ができることになった。その後私はせっかく来たのだからと羽田空港を探検した。実は私は、海外はおろか、東京にも行ったことがなかったのだ。初めての国際空港を1人で楽しんでいた。暫くすると母が高松からやってきた。そしてパスポートを受け取った。その日は2人で空港内のホテルに泊まった。今回が初めての海外なうえに1人旅。不安もあったがそれ以上にここまでしてもらったのだから到着しないわけにはいかないという使命感が強かった。とりあえず体調は万全にしようと思い早めに就寝した。



羽田空港

7月25日(火)

5時起床。きつと寝られないだろうと思っていたが、あつという間に寝ていたらしい。気が付くと朝だった。昨日たくさんの方々にご迷惑とご心配を掛けてしまったのでその方々に無事に到着したと報告したい。母に別れを告げシカゴ空港行きの飛行機に乗った。飛行機の中では眠ることができず映画やドラマを見ていた。また人生初の機内食も楽しんだ。そしていよいよシカゴ空港に到着した。



シカゴ空港にて

空港ではガイドさんが待っていた。私がタンパ空港を出発するまでずっと親切にサポートして下さいました。そして私はタンパ空港行きの飛行機に乗り、無事到着した。空港ではホストマザーのシャロン、ホストシスターのソフィア、セント・ピーターズバーグ国際民族会のロッタさん、引率の西村さんが出迎えてくれた。みんなが笑顔だったので安心して泣きそうだった。心の底から嬉しかった。今日はいい報告ができそうだった。そして母に到着したとの連絡をし、ホストファミリーの家に向かった。今年度よりセント・ピーターズバーグ市、高松市の親善研修生がお互いにホストファミリーとして受け入れることになった。研修生のジェネーが高松で滞在している際、私達家族と過ごした。しかし今回ジェネーの都合により私のホストファミリーになることができなくなった為、昨年度の親善研修生がお世話になったブラウン家が私を受入れてくれた。車内からはセント・ピーターズバーグの広大な海が見えた。車内では滞在中にしてみたいことや私の高校について聞かれたりした。最初はなかなか上手く話が出来なかったが10分もすると慣れてきて話が途切れなくなっていった。ソフィアは9月から5年生になる。アメリカでは5年生からが日本の学年でいう中学生になるらしく、新たな学校に通うと言っていた。緊張しているようだったので4月から高校生になった私がエールを送った。そして家に着くとラブラドルレトリバーのマディックスから熱烈な歓迎を受けた。私は動物が大好きなのでとても嬉しかった。そうしているとホストファミリーのボジターが帰ってきた。彼は私の姿を見て叫んだ。「遅かったじゃないか！ようこそ、セント・ピーターズバーグへ！」それがとても嬉しかった。ブラウン家は4人家族で、ホストブラザーのオースティンは大学生で現在は一人暮らししている。この日は夕食を作る時間はなかったため近くのファストフード店でハンバーガーやチキンを買った。注文方法などは日本とほとんど変わらなかったが、飲み物のサイズに圧倒された。私はSサイズを頼んだのだが、出てきたカップの大きさはLサイズだった。飲み切れるのだろうか…と不安を感じながらも店を後にし、家で夕食を食べた。チキンがとても美味しかった。またボジターは音楽が大好きで食事中は必ず音楽が流れていた。ボジターがダウンロードした音楽をすべて聞き終わるには数十日かかるらしい。その後シャワーを浴びて、ふかふかのベッドの上に寝転がった瞬間に眠っていた。



タンパ空港でのお迎え

7月26日(水)

目が覚めると10時だった。しまった。昨日私はシャロンに6時に起きると伝えていたのだ。急いでリビングに行くとソフィアが笑いながら私を待っていた。ソフィアとマディックスに朝の挨拶をしているとシャロンがやってきた。挨拶をすると私に「急いで、今日は11時に集合して、トロピカーナフィールドに行くのよ。」と言った。急いで準備をして何とか間に合った。そしてそこでセント・ピーターズバーグ市の親善研修生であるクロエとザック、そして彼らの友達や昨年度の親善研修生ウィルに会った。彼らは私の無事な到着を喜んでくれた。そして西坂さん、長谷君とも合流した。そしてメジャーリーグのタンパベイ・レイズの拠点地、トロピカーナフィールドに到着した。海に近かったので

海風が感じられ心地よかった。入り口には金属探知機と思われる機械、そして手荷物検査場があった。そのあとは席に座って試合が始まるのを待った。今日はトロピカーナフィールドが本拠地であるタンパベイ・レイズとボルチモア・オリオールズが対戦する。その間クロエやザックの友達と話していた。初対面とは思えない程彼らは気さくでとても優しく接してくれた。いよいよ試合が始まった。暫くすると大きなスクリーンに試合観戦をしている観客が映し出された。この日はたくさんの子供達が来ていたので、楽しそうな笑顔をスクリーン



トロピカーナフィールドの様子

ンで見ることができた。昼食に食べたチキンバーガーが意外と薄味でとてもびっくりした。試合ではタンパベイ・レイズが快勝した。ソフィアに「あなたたちのおかげでレイズが勝ったわ!」と言われとても嬉しく2人でハイタッチをした。その後クロエとザックが市内を案内してくれた。クロエが運転する車に乗せてもらうことになった。自分と同年くらいの子が車を運転している様子に感動したが、やはり運転は少々荒かった。そして地元のカフェに到着した。私はそこで生まれて初めてチップを払った。アメリカでは当たり前なのが私にとってはとても新鮮だった。その後ジョーンズ・パスという海岸沿いにある観光施設へ向かった。海水浴を楽しんでいる人がいたが、今日は断念した。代わりに買い物たくさんした。ふと前方を見ると目の前

の橋が2つに分かれていくのが見えた。跳ね上げ橋だ。私は初めて見たのでとても感動した。飴屋があったので中に入ってみると様々な色の飴が売られていた。それらはすべて量り売りだった。日本では決して売られないような色の飴も数多く売られており、飴の色1つとってもこんなにも違うのかと驚いた。色々とみんなと観光しているうちに帰宅するのが少し遅くなってしまった。ボジターが心配して待っていてくれた。心配を掛けてしまったと思い反省しつつみんなに今日に出来事を話すと楽しそうに聞いてくれ嬉しかった。そしてシャワーを浴び眠りについた。



跳ね上げ橋

7月27日(木)



ビーチの様子

今日は9時30分に目が覚めた。朝食はシリアルだった。甘いと思っていたら全く甘くなかったのでびっくりした。11時にセント・ピーターズバーグ歴史博物館集合だったのでそれまでシャロンが市内を案内してくれた。私の家から車で5分程にある海に行くとたくさんのクルーザーが岸に並んでいた。聞くと船を持っている人や船の中で生活している人もいるらしい。びっくりしたがそれだけ海が身近ということなのかと感じた。海にはたくさんの魚が泳いでいた。小さい魚が多かったが今ま

で見たことのない細い魚もいた。今日は朝からずっとびっくりしている。それだけアメリカと日本には大きな違いがあるのだと改めて思う。浜辺にはたくさんのビーチバレー用のコートや、鉄棒があり人々が泳いだり、ランニングをしたり、鉄棒で懸垂をしたりしていた。そのあとは車で市内をドライ

ブした。高層ビルなど近代的な建物も数多くあったが、一方で古い建物も多々あり、高松市の中心部とは全く違った風景であり感動した。そして11時になったので歴史博物館に行った。歴史博物館にはロッタさんが来ており私に水筒をくれた。連日暑さが続くので水分補給をしっかりとるようにとのこと。セント・ピーターズバーグ市には自動販売機が殆ど無かった。連日の肌に突き刺さるような日差しに参っていた私はとても嬉しかった。歴史博物館にはセント・ピーターズバーグ市の歴史に関する写真や絵画、タンパベイ湾の入港料が払えなかった当時のイベント業者がその代りに置いていったというエジプトのミイラ等興味深いものが展示されていた。中でも私のお気に入りにはアリゲーターガールだ。ワニの置物に女の子の頭が取り付けられていてあまりのリアルさに昔の人はこの置物のようなワニが存在すると信じていたらしい。また、野球選手などのサインボールが飾られていた。サインボールの数で世界ギネス記録に認定されているだけあって壁一面



ソフィアとの書道

にボールが飾られており、その数に圧倒された。その後飛行場が近くにあるレストランで昼食。私はサンドイッチを頼んだ。すると日本では2人前くらいの量のサンドイッチが運ばれてきた。とても食べきれなかったので家に持ち帰った。話には聞いていたがやはりアメリカの食事の量は多いのだと感じた。一旦帰宅し、再びダウンタウンに行き観光ガイド付きのバスに乗った。運転手の方がバスの停留所までにある建物や公園などを紹介してくれるのだ。運転手の方はセント・ピーターズバーグ市を知り尽くしており、分かり易く説明してくれるだけではなく、ジョークも交えて話をしてくれるのでとても楽しかった。またバスの車体の色も黄色と華やかだった。その後映画館へ行った。映画館に入るとすぐにゲームセンターがあった。私はソフィアと一緒にエアホッケーをした。結果は引き分けだった。ゲームも楽しかったが何よりソフィアと遊んだことが楽しかった。そして待ちに待った映画の上映時間がやってきた。今回見たのは「Despicable me3」。邦題は「怪盗グルーのミニオン大脱走」というタイトルだ。私は今までミニオンシリーズを見たことはなかったのだがミニオンの可愛さに心を奪われた。帰りの車内ではシャロンとソフィアとミニオンの話で大いに盛り上がった。そして家に帰った後は一緒に書道をした。私は小学校3年生の時から3年間書道を習っていた。私の好きな書道を是非ホストファミリーに体験してもらいたいと思った。彼らは初めて見る書道の道具や筆での書き方にとっても驚いていた。そしていざやってみると見かけよりも難しいと言いながらも楽しそうに書いてくれた。とても嬉しかった。そしてそのあとハンバーガーショップへ行った。ハンバーガーはとても美味しく、今後日本のハンバーガーは食べられないと、一瞬本気で思ったくらいだった。実はこの店は昔からある有名なお店だそうでボジターがシャロンとのデート場所として来たことがあるのだそうで、2人はその時の話を楽しそうに話してくれた。帰宅して日本語の歴史や成り立ちについて話した。だがとても難しくなかなかうまく伝えることができず、悔しかった。やはりまだまだ私は自分の周りのことを何も知らないのだなと痛感する。シャワーを浴びて1時ごろに就寝した。

7月28日(金)

9時起床。朝起きるとクロワッサンの焼けるいい匂いがした。この日の朝食はクロワッサンとハム、ベーコンにオレンジジュースだった。ベーコンが私には甘く感じ少しびっくりした。後日西坂さんも「ベーコンが甘い」と言っていたのでアメリカのベーコンは甘いのかもしれない。朝食後はソフィアとWiiでゲームをした。2人で卓球対決をしたりボーリング対決をしたりした。私はアメリカの女の子はどのような遊びをするのだろうかと思っていたのだが日本の女の子と変わらないのだなと感

じた。その後家の近くにあるペットショップに行った。なんとペットショップには日本のようにショーケースが並んでいるのではなく店の中央に蓋のないゲージが置かれており、自由に触ってよいと言われた。また、犬や猫は売られておらずハムスターとウサギが主に売られていた。また私の度肝を抜いたのはタランチュラを売っていたことだった。毒を持っていないものだったが驚きで声が出なかった。



商工会議所でのプレゼンテーション

店を出た後セント・ピーターズバーグ商工会議所へ向かった。英語で高松についてのプレゼンテーションを行う予定だ。この親善研修事業には（公財）松平公益会から助成金を頂いている。これに伴い、今回私達は松平公ゆかりの地、物について紹介することにした。長谷君は玉藻公園、西坂さんは保多織、私は仏生山を選んだ事前研修で実際に各地を訪問し、プレゼンテーションを作成した。私は市役所での発表をしていなかったのもとても緊張した。しかし他の2人のサポートもあったり何とか成功した。私はプレゼンテーションで仏生山

の法然寺やたんきり飴、温泉などについて紹介した。このプレゼンテーションを聞いて少しでも高松市に興味を持って行ってみたいと思ってくれたらとても嬉しい。プレゼンテーション後の質疑応答ではたくさんの質問を受けた。特に長谷君の紹介した玉藻城で開催されていた古式泳法について質問が集中した。ここでも自分の知識のなさに気付かされた。たくさん勉強したつもりが実は偏った情報だけであったことを痛感した。これからも学び続けなければならないと強く思った。その後、記念にセント・ピーターズバーグ市のロゴにもなっているペリカンがあしらわれたTシャツをもらった。家に帰って昨日持って帰ったサンドイッチを食べた。食べている間、シャロンとソフィアがプレゼンテーションを褒めてくれた。少し照れくさかったが嬉しかった。やはりアメリカの方は思ったことをすぐに言葉にして伝えてくれるのだなと感じる。そしてそのあとにはサンケンガーデンズと言う植物園に行った。シャロンは植物が大好きで家の庭にもたくさんの花を植えている。なので様々な種類の植物の写真を撮って楽しんでた。私も初めて見る植物に心が躍った。特に印象的だったのは木の大きさだ。私の身長3倍くらいの大きさで、体をのけぞらせないと上まで見るができなかった。サンケンガーデンズは結婚式やパーティ等のイベント会場としても使用されており、市民にとって身近な場所なのだそう。入口には高松市との姉妹都市記念碑があり、改めてセント・ピーターズバーグ市と高松市との交流の深さを感じた。その後家の近くのあるアイスクリーム屋に行った。その店はとても変わって香川のセルフサービスのうどん屋さんのような形式で売られていた。自分の好きなフレーバーのアイスクリームをカップに好きなだけ入れ、20種類ほどあるトッピングの中から好きなものをのせ、自分の好きなソースをかける。そして合計の重さで値段が決まるのだ。暑い気候のせいか平日の昼間だったのに多くの人がアイスクリームを楽しんでいた。そして次はシャロンのお勧めの本屋さんへ行った。店内は広く少し暗いレトロな雰囲気だった。ソフィアが店内や本などを紹介してくれた。絵本から小説、専門書まで幅広く取り扱っていた。すると、私が小さい頃に大好きだった本を見つけた。またレジでお会計をしていると店員さんが話し掛けてきてとても仲良くなった。店員とお客の距離が近いのだなと感じた。その後何軒かのお店を回り、家でボジターと合流したのちにシャッフルボード場へ行った。シャッフルボードとは日本のゲートボールとカーリングを合わせたようなスポーツだ。ルールはいたってシンプルで子供から大人まで楽しめる。



サンケンガーデンズの大木

あまり体力を使うゲームではないため、退職者の移住が多いセント・ピーターズバーグ市では人気のスポーツなのだそう。しかし、やってみると意外にも難しく、熱中した。みんなと対戦し楽しかった。気が付けばもう 21 時。解散した後はホストファミリーとキューバのサンドイッチを食べた。プランチャと呼ばれるサンドイッチプレスでトーストされており、ジューシーなお肉が中にぎっしり詰まっていたとても美味しかった。ただソフィアはとても疲れていて食べながら寝ていたのもみんなで急いで食べた。ボジターとシャロンは新聞に載っていたというお寿司のレシピを私にみせてくれた。そのお寿司にはマンゴーを刺身の代わりに入れるように書かれていた。びっくりし過ぎて声が出ない。やっとのことで日本ではお寿司に果物は入れないと言うと笑っていた。その後シャワーを浴びて就寝した。



シャッフルボード場

7月29日(土)



手作りパンケーキ

今日は7時30分に起きた。朝起きるとシャロンがパンケーキを作ってくれていた。甘くて熱々でとてもおいしかった。その後、家に卓球台があったのでソフィアと一緒に卓球をした。ただ気温が高かったのですぐに止めて部屋に入った。ボジターは家の庭に生えている芝生を芝刈り機で刈っていたので話をしに行くに汗だくだった。私はソフィアとシャロンと一緒に海の近くにあるザ・ヴィノイ・ルネッサンスと言うホテルを見に行った。このホテルは内装がとても美しい。昔ホテルは荒れ果てていたがその後改修され、今の美しい姿になったそう。中に入ってみると美しいガラスでできた花が飾ってあった。その花はチフリーという芸術家を作った作品だった。ガラスが光を反射して輝きとてもきれいだった。そのほかにも天井に大きなシャンデリアが下げられていて壁に美しい彫刻が施されていた。でもそんな豪華な内装の中にもどこか歴史的な雰囲気が感じられた。その後クロエの家に行き、セブン・イレブンに連れて行ってくれた。ガソリンスタンドの敷地内にあり、内装は日本と全く違った。クロエがガソリン代をそこで払っていた。日本で見られない光景にとっても驚いた。その後アジアの食品を扱う大きなスーパーマーケットへ行った。今日は私達でホストファミリーや国際交流委員の方々に日本食を振舞う。この日の為に事前研修でちらし寿司やそうめんの作り方を教わった。スーパーマーケットには様々な品物が売られており、日本語で商品名が書かれた商品も多かった。だが、野菜の大きさは日本で売られている同じものと比べると大きいものもあった。また香りが日本の物よりきつい気がした。衝撃的だったのがエリンギの大きさだった。日本のエリンギと比べて3倍はあった。一瞬別の食べ物かと思った。今回国際交流委員のメンバーの方が快く私達に台所とパーティ会場を貸して下さった。その後みんなで頑張って調理した。パーティーの出席者は30人ほど。みんな



アジアスーパーマーケット

美味しいと食べてくれてとても嬉しかった。そうめんのめんつゆを見て「この茶色の液体はどのように作るのか？」ちらし寿司を見て「魚が入ってなくてもお寿司と言うのか？」など日本食に興味津々で様々な質問を受けた。その後私達はお茶会を開くため浴衣に着替えた。浴衣は初めて見る人が多かったらしく、たくさんの人と写真を撮った。そしていよいよお茶会が始まった。まず私が簡単に茶道の



お茶会

説明を行い、その後長谷君がお茶をたてた。みんな静かに長谷君の手元をじっと見ていた。長谷君がたてたお茶を西坂さんが運ぶという一連の作法にみなさん興味を持ちまた一様に感動していた。日本文化を感じてもらえてとても嬉しかった。その後は私が書道を披露した。半紙よりも大きいサイズの和紙にセント・ピーターズバーグ市と高松市の交流を象徴して「絆」という漢字を書いた。墨や筆はあまり見たことがないらしく、驚いていた。上手くやり遂げられて安心した。帰宅し、倒れるように就寝した。

7月30日(日)



運転するザック

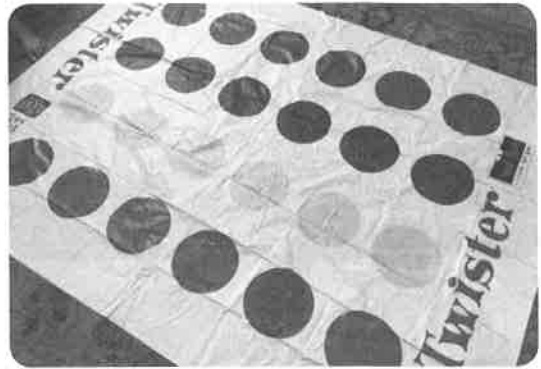
今日は8時45分に起きた。今日はブッシュガーデンという遊園地に行く日だ。ザックがブッシュガーデンまで連れて行ってくれた。ザックは音楽が好きで自分で作曲したり、ギターを弾いたりする。そんなザックが好きだという歌手の曲を車の中で掛けてくれた。心地良く、その曲が好きになった。後日その歌手のCDを買った程だ。ブッシュガーデンに着いた。駐車場からバスで移動する。そして最初にザックの彼女であるジェシカが勧めるジェットコースターに乗った。日本のものよりも怖かったがジェットコースターが好きな私に

はとても楽しかった。その後急に雨が降り始めアトラクションが止まってしまった。そのため室内のレストランでアメリカの1980年代を舞台にしたミュージックショーを観た。ザックの車の中でアメリカの音楽を聴き、好きになっていた私には幸せな時間だった。昼食にはザックのお父さんが作ってきてくれたピーナツバターサンドイッチと市販のブラウニーを食べた。思ったよりも甘くなくてとても美味しかった。雨が止んだのでジェットコースターに乗ろうと並んでいた。並んでいる時にある人が近くにある箱を太鼓に見立ててたたき始めた。アフリカの民族音楽のようなリズムだった。すると周囲の人も音楽に乗って手拍子したり踊り始めたりし始めてびっくりした。日本ではあまり見られない光景だと思う。アメリカの方の陽気さにふれた。その後いくつかのアトラクションに乗った。アトラクションに並ぶ時、列を誘導する従業員がいなかったので私達は自分の好きな席に座って待っていた。自由なんだなと思った。そしてクロエの家に戻ると、サプライズパーティーを開いてくれていた。水着に着替えて参加した。ビニールシートに石鹸水をまいてその上を滑ったり、水風船を投げ合ったりした。計画してくれたクロエは「日本では経験できないアメリカのパーティだよ！楽しんでね」と言ってくれた。確かにこの経験は日本ではあまりできないと思い楽しんだ。パーティーで聞いた会話に驚いた。友達同士仲良く話していたと思われた2人が不意に「そう言えば名前は？」と互いに自己紹介を始めたのだ。初対面の人でも前から知っていたかのように話し出す。そのコミュニケーション能力の高さにも圧倒された。ザックやクロエの友達に来ていてみんな優しかった。私達

が楽しむことを一番に考えてくれていて「楽しい？」と頻繁に聞いてくれた。「楽しい！」と答えるととても嬉しそう笑っていた。そのパーティーにはジェネーも来ており、久々に再会した。ジェネーは私が来たことをとても喜んでくれて嬉しかった。気が付くと遅い時間になっていた。ザックが家まで送ってくれた。ホストファミリーに今日の話を話してから倒れるように就寝した。

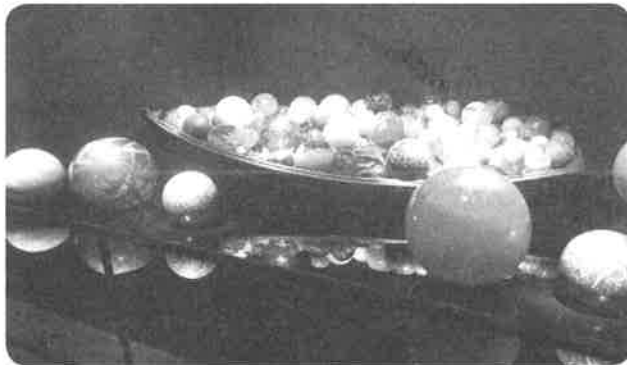
7月31日(月)

今日は8時45分に起きた。朝起きると地面に叩きつけるような雨が降っていた。このトロピカルストームと言う小規模な台風により今日の公式行事であった市街壁画ツアーは中止となった。私が楽しみにしていた行事の1つだったので少し残念だったがその代わりに家でソフィアと様々なゲームをした。その中でも1番楽しかったのは「Twister」という遊びだった。ルーレットでシートに6つずつある赤、青、黄、緑色の円のどこに両手足を置くか決める。それを繰り返していきお尻が地面に着いたら終了となってしまふ。単純な遊びなのだが



Twister

なかなか難しく、ソフィアと何回も戦った。そうしているうちに雨が止んだので私が行きたかったチフリー美術館へ行った。チフリーという著名なガラス彫刻家の作品が数多く展示されている。本当にガラスでできているのかと疑ってしまうような作品ばかりでとても感動した。またアイデアも独創的で本当にすごいなと思った。そのあとは「Hot Shop」という実際にガラス作品を作っているところを



チフリーコレクション

見学できるという工房へ行った。実演時間になるまで敷地内のアートセンターを見学した。セント・ピーターズバーグ市出身の芸術家の作品が販売されている。セント・ピーターズバーグ市はアートの町なので地元の芸術家を育てるのに熱心なのだなど感じた。その中でもかわいいなと思ったのはトカゲの形をブローチだった。カラフルでとても印象的だった。アメリカは色鮮やかなものが多いなと思った。そしてガラス作品を作っている所へ移動し、実演を見た。職

人2人の息がぴったりでとても驚いた。花瓶を作っているのかと思ったら最後で大皿の様な作品になったことに驚いた。彼らはなんの迷いもなくまた精巧に作品を完成させていて、その技術力の高さにとっても感動した。ガラスを溶かす窯の熱が感じられるほど近くで見た実演はとても印象的だった。昼食を食べるに近くにあるお寿司屋さんに行った。アメリカの寿司を食べると言われて少しドキッとした。どんなものが出てくるのか想像もつかなかったからだ。だが、いざ頼んでみると中にはエビフライとレタスが入っていて、食べてみるととてもおいしかった。また店には刺身醤油とわさび、箸が置かれており、日本食が世界に広がっていることを体感した。そして、その後1ドルショップに行った。アメリカにもあるのだなと思いながら店



アメリカの寿司

内に入るとたくさんの商品が並んでいた。アメリカでは9月から学校が始まる。そのため、入学や転校する子供向けに筆記用具や水筒などが多く売られていた。私は映画を見てからミニオンが大好きになったのでミニオンのコップを購入した。そして帰宅シタ食を食べた。この日はシャロンの手料理。シャロンのお母さんがレシピを考案したらしい。チキンをトマトソースで煮込んだものでとても美味しかった。食後に全員でボードゲームをして遊んだ。ソフィアと私チーム、シャロンとボジターチームに分かれて対戦した。ソフィアと私が勝利し嬉しかった。そのあとは「Gong Show」という番組を見た。日本の仮装大賞のような番組でとても面白かった。そしてシャワーを浴びて荷物の整理をした。いよいよ明日が最終日。めいっぱい楽しもうと心に決め就寝した。

8月1日(火)



ダリ美術館

8時45分に起床。朝食を済ませダリ美術館に向かった。ダリ美術館見学はとても楽しみにしていたのでわくわくした。今日は現地連絡員のプランタムラさんが日本語でガイドをしてくださる。館内に入りDNAを意識して作られたらせん階段を上るとそこはもうサルバドール・ダリの世界。私は美術鑑賞が大好きなのでとても興奮した。ダリが1枚の絵に込めた様々な思いを感じることができて感動した。その後ホストファミリーお勧めの館内にあるお土産屋さんに行った。ダリの顔が大きくプリントされたうちわやダリの代表作「記憶

の固執」をモチーフにした目覚まし時計等様々なユニークな品物ばかりで、選んでいるだけで1日が終わってしまいそうだった。買い物の後、ザックが昨日できなかった市街壁画ツアーを「ザッカーリーツアー」と称して案内してくれた。市街壁画を見ることができてとても嬉しかった。たくさんの壁画が至る所にあった。またジャンルも決まっていなくて、様々な種類の壁画が見られた。日本でも市街壁画をすれば落書きも減るし町も明るくなるのではないかと思った。その後昼食にサンドイッチを食べ、ザックが運転する車に乗り海まで来た。カヤックをするためだ。初めての経験に胸が躍る。カヤックに空気を入れてふくらまし、いざ出発。カヤックからの眺めは最高だった。空は快晴。空の青と海の青さがとてもきれいだった。途中、マングローブの森に入った。するとさっきまでの厳しい日差しが一転。葉に日差しがさえぎられて涼しくなり、木洩れ日もきれいだった。しかし、そんなとき私がカヤックを操縦しているとスピードを出しすぎてマングローブの根についている牡蠣の殻に衝突してしまった。カヤックに穴が開き空気が抜けていく。水がどんどんカヤックに流れ込んでくる。しまった。幸いにもカヤック2艘で来ていたので1艘に引っ張ってもらった。しかし目的地までは4マイル。そう簡単にはたどり着けない距離だったが、モーターボートに乗って釣りに行こうとしていた方に助けてもらった。本当に申し訳なく謝ると、みんなは「初めてだから仕方がない、それより無事でよかった。」と言ってくれて心が救われるような思いだった。その後急いで家に帰り18時から始まるSPIFFS主催の送別会の準備をした。送別会の中で私はプレゼンテーション、そして書道を



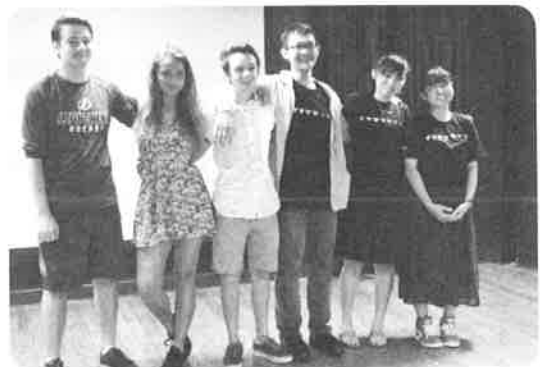
カヤックから見える景色



SPIFFS 主催の送別会

披露することになっている。混乱していた気持ちを落ち着かせ会場に向かった。プレゼンテーションは1回目の時より上手に出来た。また西坂さんと長谷君はプレゼンテーションの後に「花は咲く」を歌った。2人のハーモニーはとてもきれいだった。その後ドイツ、ブルガリアの民族舞踊が披露された。ドイツの民族舞踊は足のステップが細かく、男女で踊り方も違うので見ていてとても美しかった。ブルガリアは独特の掛け声と共にみんな動きを揃え、元気よく踊っていて陽気な感じがした。どちらも私にとって新鮮なものだった。インドやフィ

リピン等世界各国の料理が並び夕食会が始まった。どの国の料理もおいしかった。辛い物や、味が濃いもの、薄いもの。様々な味を楽しめて良かった。またプランタムラさんの夫のウィリアムさんは熱心な日本刀のコレクターで日本刀についてまとめた本をくださった。日本刀についてとても詳しく書かれており、日本人よりも絶対に詳しいと思ひびっくりした。そのあとは書道を披露した。やはり墨と筆、書き方にはみなさん驚いていた。興味津々で見てくれていてとても嬉しかった。最後にクロエとザックに誘われてアイスクリーム屋さんに行った。送別会が終わってから行ったので遅い時間だったがたくさんの方がいてびっくりした。最終日なので悔いの残らないようにと思いきりアイスを食べた。やっぱり美味しかった。そして家に帰り今日のカヤックの話をする。シャロンはびっくりしていたものの「いい経験ね!」と笑っていた。その後ソフィアに狐の人形をもらったり、ソフィアが新しく通う学校の制服を見せてもらったりした。ソフィアの学校の制服は日本の学校の制服とは少し違った。そしてホストファミリーにおやすみと告げ部屋に入った。そして荷物の整理をし、ホストファミリーに感謝の手紙を書いた。毎日の様々な思い出が頭を駆け巡った。楽しかった。このように私が思えるのもたくさんの方々の支援のお陰なのだと感じた。部屋もきれいに片づけ、気が付くともう夜中の2時。空港への集合時間は4時30分。このまま起きていることにした。同じく起きていた西坂さんと電話で思い出を語り合った。



送別会にて

8月2日(水)

ついに迎えてしまったお別れの日。最後にはシャロンが焼いてくれたベーグルを食べ空港へ向かった。もうしばらく見ることのできない街の風景をぼんやり眺めていた。そしてお別れ。手紙を渡すととても喜んでくれた。ボジターはよく私に冗談を言っていたのでそのことを手紙に書くとみんな大笑いしていた。ソフィアは私がいなくて寂しいと何度も言っていた。私も寂しい。クロエとザックにも手紙を渡しハグをした。2人は絶対また来てねと言ってくれたので、私も日本にも来てねと



タンバ空港にて最後の一枚

言った。そして写真を撮って別れた。別れた後は未練も残った。まだ見ていない風景も場所もたくさんあるだろう。また来よう。そう強く思った。

8月3日(火)

成田空港に着くと自分の周りに日本語があふれていた。頭が混乱する。そうか、ここは日本なのか。帰ってきたのだ。もう少しアメリカに居たかった。高松空港に着くと家族が待っていてくれた。今の私には話したい事がたくさんある。でもまずは「ただいま」から始めようと思う。

感想文



香川県立高松高等学校 1年

佐光 未帆

ホスピタリティ

私は今回の研修が初めての海外訪問となった。訪問にあたり周囲のたくさんの方々から色々な話を聞いていた。だが実際に自分の目で見た光景は、私の想像よりはるかに素晴らしかった。また様々な方との交流から得られたものは非常に多かった。そのなかで私が最も感銘を受けたのが「ホスピタリティ」だ。

「ホスピタリティ」とは、「奉仕の精神」である。私が滞在している間、ホストファミリーのブラウン一家は私を様々なところへ連れて行ってくれた。また親善研修生であるザックとクロエもセント・ピーターズバーグ市を色々紹介してくれた。だがよく考えてみるとブラウン一家もザックもクロエも、本来私のホストファミリーではないのに、私の為に最大限できることを毎日してくれた。また、お店に行ったときには「姉妹都市である高松市から来た」と言うと誰もが歓迎してくれ、現地の同世代のみんなは私の話を興味深そうに聞いてくれた。私はこのような「ホスピタリティ」の高さに心を打たれたのである。

訪問客が来たら最大限のおもてなしをする。訪問客のことを一番に考え、最善を尽くす。

この精神を肌で感じられたこと、これはこれからの私の人生の財産となるに違いない。

最後に、私をセント・ピーターズバーグ市に送り届けてくださったすべての方々へ感謝したい。この研修中に私が体験した空気、景色、雰囲気、会話、異文化交流、発信、すべてが貴重な経験となった。この経験から考え、行動していくことを高松市の親善研修生としての次なる使命とし、これからを過ごしていこうと思う。

親善研修生 報告書 II

日誌・活動記録

高松第一高等学校1年 西坂 美咲

7月24日(月)



出発前の一枚

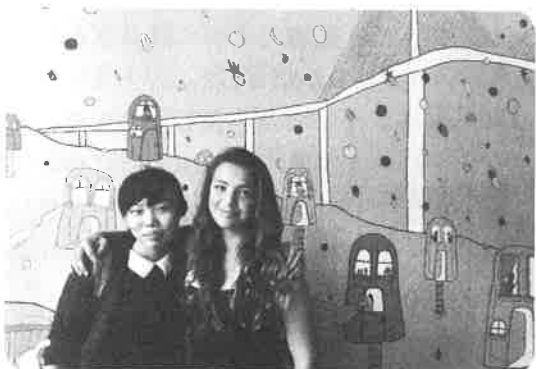
ついに今日は出発の日。朝早くに家を出て、高松空港に到着。朝ご飯はきつと恋しくなるであろう、おにぎりをふたつ。検査のゲートを通り、ここで本当にお別れ。同じ研修生の佐光さんがお母さんとガラス越しに電話しているのを見て私の母もしたそうにしていたが、なんだか恥ずかしくてできなかった。そのことを羽田空港へ向かう飛行機の中で少し後悔し、現地に着いてからたくさん写真を送ろう、と思った。羽田空港に到着し、国際線のターミナルへ移動した。その時に乗ったバスの中には既にたくさんの外国人がいて、いよいよか

と少し緊張気味だったが、他の研修生2人と話しているとだいぶ落ち着くことができた。国際線へ到着し、手荷物検査を受ける前に、佐光さんがパスポートを高松に忘れてしまったことに気づき、結局この日一緒に行くことができなくなった。ひとり残して行ってしまうのがとても心配だったが、私達まで出発しないわけにはいかなかった。現地で合流しようね、と言葉を交わしてから一旦別れた。飛行機の中ではゲームをしたり、映画を見たりと長旅を楽しんだ。睡眠、ゲーム、映画、と繰り返していたらあっという間に13時間経っていた。シカゴ空港に着いてから、施設内にあったマクドナルドで昼食をとった。私が注文したのはフィッシュバーガーのセット。飲み物のサイズが思っていたものより一回り大きく、それにさえわくわくした。その後、



シカゴ空港に到着！

飛行機を乗り継いでタンパ空港へ。到着し、すぐにそれぞれのホストファミリーと合流した。今回私を受け入れてくれるのはジョンソン家。今年度からセント・ピーターズバーグ市・高松市双方の親善研修生が互いにホストファミリーとして受け入れることになっていた。親善研修生の1人だったクロエは高松に滞在中、私達家族と過ごした。クロエの家族は医療関係の仕事をしているホストファーザー



クロエと私

のウィリアム、ホストマザーのショーン、私と同年の妹のテイラー、犬のココとルナ。この日はウィリアムとショーンは仕事だったらしく、クロエと、テイラーが迎えに来てくれていた。日本からのお土産とクロエが高松にいた間のアルバムをプレゼントしたらとても喜んでくれた。帰りにクロエの運転でピザ屋に行った。長谷君とそのホストファミリーのザックも到着した。私はアンチョビピザのSサイズを頼んだが、日本のMサイズ位の大きさに少し驚いた。食べきれなかったピザは持ち帰ることにした。家に帰る前にザックの友達たち

も加わってメンチーズというアイスクリームショップに行った。量り売りのお店で、私はブルーベリーとココナッツのミックスを食べた。帰宅してからは長旅で疲れていたのととても眠く、荷物をあまり片付けずに就寝した。

7月25日(火)

今朝はゆっくりと9時50分に起床。朝ご飯になんとお米が出てきた。日本のものより細長く、パラパラとしていた。おかずはサラダとチーズ入りの卵焼き。忙しいお母さんに代わって、テイラーが作ったそうだ。ウィリアムとショーンには残念なことに昨日会うことが出来なかった。クロエは高校の陸上部の練習に行ったらしく、1日の予定を紙に書いて残してくれていた。テイラーのお気に入りだという洋楽を聞きながら朝食を食べていると、ジョンソン家で飼っている犬のルナ、ココがテーブルに近づいてきた。彼女たちもご飯が食べたかっ



朝ご飯

たらしく、テイラーが卵焼きとブルーベリーをあげていた。朝食の後は庭の草木に水やりをした。ジョンソン宅には大きなプールと離れの部屋があり、テイラーがその分庭が広いから大変なんだよ、と言っていた。ルナは水が大好きで、ホースから出てくる水に飛びついていた。11時ごろにクロエが練習から帰宅し、ショッピングモールへ行った。施設自体はそこまで大きくなかったがたくさんの店舗が並んでいた。モールではまず、お菓子屋さんに連れて行ってもらった。カラフルなグミやキャンディがたくさん置いてあり、とてもわくわくした。次にスポーツ用品店へ。店には地元の野球チーム、タンパベイ・レイズのTシャツやキャップなどのグッズがたくさん置いてあった。しばらく見歩いてから、クロエお勧めの「Target」という大型スーパーマーケットへ連れて行ってもらった。なんでも置いているスーパーのようなところで、食品、おもちゃ、CD、本等あらゆるものが売られており、このお店だけで大抵のものは揃えられると思った。私はハリーポッターの第1巻を買った。レジはセルフで私は現金で支払ったのだが、クロエやテイラーはクレジットカードで支払っていた。日本よりクレジットカードを使うことが多いらしい。午後は市長表敬と、国際交流委員会の方へ高松についてのプレゼンテーション。市役所の中を少し見学した。まず、入ってすぐにセキュリティ対策の金属探知機ゲートがあって驚いた。セント・ピーターズバーグ市長のリック・クライスマンさんにお会いした。高松



議席に座ってみました

から持参したプレゼントを渡した時に喜んでくれたので私も嬉しくなった。私達研修生の事や滞在中の予定などについて話した。笑顔で時々冗談を交えて話して下さった。サンシャインシティの市長にぴったりな明るくて優しい方だなと思った。議場で実際に議員さんが座る椅子に座れるという貴重な体験をした。プレゼンテーションでは意外と緊張しなかった。長谷君は玉藻城について、私は高松の伝統工芸品である保多織についての紹介をし、持ってきていた保多織のカードケースに興味を持ってもらえて嬉しかった。「触り心地が良い」、「きれいな色合いだね」とたくさんの感想をもらえた。保多織の魅力が伝わって良かったなと思った。あまり緊張しなかったがパソコンが思ったように動かず、少し悔しかった。プレゼンテーションの後、国際交流委員会の方が用意してくださっていたカラフルなクッキーと日本ではあまり見たことがない柑

橘味の緑茶頂いた。市役所での公式行事の後、テイラーとビーチに行く約束をしていたので、一旦家に帰って水着に着替えた。クロエはアルバイトがあったので来れなかった。ショーンがビーチまで送ってくれた。海岸にはすぐ着いた。砂が真っ白で、とてもさらさらとしていた。貝殻もたくさんあって、きれいなものを何個か拾った。途中からテイラーの友達のアリーも加わり3人で遊んだ。浅いところにも魚が泳いでいて、足に当たった時はとてもびっくりした。晩ご飯はマクドナルドのチキンナゲット。自分で頼もうとしたら緊張してしまい、焦って言葉が出てこなかったので上手く伝わらず、テイラーに助けてもらうことに。次はきちんと伝えられるよう頑張ろう。夕食の後は、アイスクリームショップに寄った。現地の人々はアイスクリームが大好き。私は淡い水色とピンク色のコットンキャンディ味と濃い赤、青、緑色をしたスーパーマン味を頼んだ。アメリカの食べ物ではなかなか見られない鮮やかな色合いの物が多いなと感じた。青色や緑色のデコレーションがされたドーナツ等を見ていたら楽しくなってくるものばかりだ。家に帰ってから佐光さんが無事タンパ空港に到着したと聞いた。明日会うのが楽しみだ。



ビーチから見えた夕日

7月26日(水)



クロエとルナ

今日は7時半に目が覚めた。朝ご飯はベーグルとフルーツ、苺のヨーグルト、レモネードだった。テイラーは今朝もルナにブルーベリーをあげていた。好物らしい。12時から地元の野球チーム、タンパベイ・レイズの野球観戦。待ち合わせ場所には佐光さんがいて、クロエたちと一緒に喜んだ。試合はトロピカーナフィールドで行われた。とても珍しいクーラー完備のドームで、快適だったが真夏の球場にいるのに汗ひとつかかないということに少し不思議な気分になった。タンパベイ・レイズのマスコットがユニークで何の動物かが分からなかったので話しているうちに試合開始となった。ちなみに後からそのキャラクターについて調べてみるとレイモンドという名前でもメキシコ湾出身の架空の動物ということだった。点を取ったり取られたりする度に湧く観客席。ドームの中で渦巻く熱気に、見ている方まで試合に引き込まれるようだった。暫くして佐光さんと、佐光さんのホストファミリーのシャロン、ソフィアの4人で昼食を買いに行くことにした。球場内

にはたくさんのファストフード店があり、私達はチキンバーガーセットを買った。その際店員さんに紙ナプキンを大量に渡された。アメリカへ来てから飲食店で紙ナプキンをたくさん渡されることが多い。小さな出来事だが、日本ではあまり見られないので文化の差だなあ、と思った。席に帰る前にセルフのケチャップをフライドポテトの上にたくさん盛り付けた。昼食を食べ終わった後、ドームの中を見回していると、遠くのほうに大きな水槽を見つけた。聞けば、球団の名前の由来になったエイが泳いでいるようで時間によっては触ることもで



ドームの球場

きたらしい。試合はタンパベイ・レイズズの勝利で幕を閉じた。午後からは、クロエとザック、そして彼らの友達たちが私達を市内観光に連れて行ってくれた。まず、カフェに行った。私は瓶コーラを頼んだ。外が暑いので、冷たい飲み物は最高に美味しい。代金を支払うときに初めてチップを支払った。日本との文化の違いのひとつだなと感じた。現地の人と同じように支払うことが出来て、良い機会になったと思う。カフェを出てから海岸沿いの地域にあるジョンズ・パスという観光施設に連れて行っ



カフェ店内で

てもらった。この辺りには長期滞在する観光客の為のホテルがたくさん建ち並んでいた。車から降り、大きな橋を徒歩で渡る。なんでこんなに暑いのに歩くのだろう、と思っていたら、どうやらクロエは橋の上から見える海を見せたかったようだ。確かに、太陽の光が海面に反射して輝き、とても美しい光景だった。橋を渡ってから色んなお店に行った。まず、小さなおもちゃ屋さんで家族へのお土産にカラフルでかわいい砂のおもちゃを買った。次に雑貨店へ。ここでもキーホルダーなど、たくさんのお土産を購入。そしてトフィーのお店にも入った。様々な種類のトフィーがずらりと並んでいる。ベーコン味と書かれたタグを発見。個性的な味がしそうだ。店頭では機械がトフィーを練っていて、伸ばされる動きが面白く、つい見入ってしまった。ダウンタウンへ向う帰り道では海を泳ぐイルカを見られてテンションが上がった。水面に上がる瞬間をどうにか撮影しようとしたのだが、これがなかなか難しかった。夕方からは研修生みんなでジョンソン家のプールで遊んだ。プールのある家はセント・ピーターズバーグでは珍しくはない。真夏の猛暑から逃げるためなのだろうか。プールにはたくさん浮き輪が浮いていて、円形で上に乗れるものが私のお気に入り。みんなで楽しい時間をすごした。こちらに来てから時間が進むのが早い。シャワーを浴び、自分の部屋に戻ってから家族にメールを送ったり、明日の予定を確認したりしていたら、いつのまにかルナとココが部屋に入ってきて私のベッドの横で寝てしまっていた。家族であると思ってくれているようで嬉しい。



ジョンソン家のプール

7月27日(木)

今朝は目覚まし時計が鳴る前に目が覚めた。今日は朝ご飯にドーナツ、クロワッサンを食べた。朝ごはんにあまり甘いものを食べたことが無かったので少し驚いた。今日はセント・ピーターズバーグ歴史博物館に行く予定。部活に行っているクロエが帰ってくるまでテイラーと家で過ごした。クロエが帰宅し、準備をし終えたあと、いつものように車に乗りこむ。運転席が左側にあるのにもそろそろ慣れてきた。クロエは運転する時、窓を開け、大音量で音楽を掛けて時々歌ったりリズムに乗ったりする。見ていてとても楽しい。10分程で歴史博物館に到着。入り口には新聞を持っている男の子の銅像があった。セント・ピーターズバーグ市は別名



セント・ピーターズバーグ歴史博物館

「サンシャインシティ：晴れの都市」と呼ばれている。それを証明するために雨の日だけに新聞を無料で配布し、その日は1年で数日という。なるほど、確かにサンシャインシティだ。博物館にはセント・ピーターズバーグの歴史に関するものが展示されていた。様々な歴史を経て現在のセント・ピーターズバーグになった過程が見れて良かった。印象に残るものも多くあり、その中でも「ワニと風変りな



熱帯魚

物たち」というコーナーにあった「アリゲーターガール」というワニと人間の女の子が合体した作品がとても印象的だった。昔サーカスの宣伝に使われていたそう。また本物のミイラが展示されていたり、プロ野球選手のサインボールがコレクションされている部屋もあり、日本人選手の名前を見つけるのに夢中になっていた。その後研修生とそれぞれのホストファミリー、SPIFFS（セント・ピーターズバーグ国際民族会）のロッタさんが集まって昼食会が開催された。レストランまで行く間、クロエがダウンタウンの建物の紹介をしてく

れた。ガラス張りの青くてきれいな高層ビルの正体が気になって尋ねてみると、なんとマンションだった。ちょっと住んでみたい。またとてもユニークな外観のダリ美術館のそばも通った。到着したのは「The Hangar Restaurant」という地元では有名なレストラン。テラスからは小さな飛行場が見えた。青い空、広がる地平線。開放感があって素敵な光景だった。その後クロエがタンパにある水族館に連れて行ってくれるのだが、とても急いでいる様子だったので理由を聞いてみると、なんと水族館は17時に閉館してしまうらしい。少しでも時間が取れるように考えてくれているのが伝わってきて、そのやさしさに温かい気持ちになった。水族館ではエイを触ったり日本では見ることでできない種類の魚を見たり、と貴重な経験をすることができた。私のお気に入りには大小様々なカラフルな魚で目を惹きつけられた。海の生物だけではなく、爬虫類など他の生き物もいた。館内の土産店でクロエはサメの口がプリントされている靴下を買っていた。クロエは変わったものが大好きらしい。私もお土産を買うためにレジに並んだ。支払うときに硬貨の使い方がわからず困っていたら後ろに並んでいた人が教えてくれた。今日の夕食は「The Columbia」というジョンソン家行きつけの創立112年の歴史あるスペイン料理店で食べた。クロエのおじいさん、おばあさんも来ていて、初めて家族みんなで食卓を囲んでいることに気づく。みんなで料理が美味しいねと言い合ったり、家族のことを話したりした。メニューも一部スペイン語で書かれていて、学校でスペイン語を習っているというクロエに教えてもらった。家に帰ってから、テイラーとポップコーンを食べながら、私のために用意してくれていた日本の映画を見た。



The Columbia

7月28日（金）

ルナの鳴き声で目が覚めた。部屋の前でおもちゃをくわえて座っていたから、着替えた後に一緒に遊んだ。今日はセント・ピーターズバーグ商工会議所で2度目のプレゼンテーション。前回の反省点を踏まえ、よりよいものにしたい。商工会議所は市街地のビルの中にあった。入り口ではTシャツ等のセント・ピーターズバーグ商品がたくさん売られていた。会議室に案内されると既にたくさんの方が集まっていた。商工会議所にインターンシップで来ていたフランス人や一昨年

高松へ来ていたカタリナも来ていた。プレゼンテーションは成功。前回より落ち着いて話すことができ、パソコンも今回は正常に動いた。プレゼンテーションしたこと以外にもセント・ピーターズバーグとの気候の違いや地理的な特徴等高松や香川について質問をされたので色々なことを伝えることができた。また、セント・ピーターズバーグでの滞在の感想も聞かれた。席に戻った時にクロエがこっそり「とっても上手だったよ!」と言ってくれたのが何より嬉しかった。プレゼンテーションが終わっても感想を言いに来てくれたり、質問してくれたり、たくさんコミュニケーションを取ることができた。



商工会議所でのプレゼンテーション

商工会議所の後はサンケンガーデンズへ行き青々とした緑に癒された。入口の所に高松市との姉妹都市記念碑があり嬉しかった。言葉を繰り返すオウムや、様々な植物があり興味深かった。その後家に帰ってクロエとザックが作ってくれたズッキーニパスタを食べた。ズッキーニをパスタの様に切って調理したものとお米にソースを掛けた



シャッフルボードTシャツ

ものだった。夕方からはシャッフルボードをした。円盤を専用の棒で押し出し、得点が描かれた場所で止まるとそれが得点になるという器用さが求められるスポーツで、私はあまり上手くプレーできなかった。帰りにショーンが研修生全員にシャッフルボードTシャツをプレゼントしてくれた。私のものは濃いピンク。「Keep St. Pete Shufflin'」と書かれていた。帰りの車の中でお礼を言うと「あなたに一番似合う色を選んだの。」と笑顔で言ってくれた。夕飯はザックの家で食べた。ザックの家では猫を飼っている。私がアレルギーを持っ

ていることを知って猫を他の部屋に連れて行ってくれた。ちょっと申し訳ないなと思っていたら、ザックのお母さんが「私も犬が苦手な近づくけないの。気にしないでね」と言ってくれた。一緒にいてとても安心できる優しい人だ。食後にみんなでスモアを作って食べた。スモアとは火であぶってとろとろになったマシュマロをチョコレートとビスケットで挟むお菓子で、甘いものが大好きな私にとってはお気に入りのお菓子の一つになった。それを伝えるとザックのお父さんも「僕も甘いものが大好きなんだ!」とスモアをもうひとつ作るよう勧めてくれた。本当に美味しかった。日本に帰ってからみんなに教えよう。帰宅してテイラーの部屋で英語で映画を見た。ふたりで大笑いした。

7月29日(土)

今日は私達研修生がホストファミリー、国際交流委員会の方に日本食を振る舞う日だ。まずはアジアの食材を売っているスーパーへ材料を買いに行った。日本のお菓子や食品等私達にとってなじみのあるものがたくさん売られていて驚いた。国際交流委員会のジョシュさんのお宅を借り、いざ調理。作るのは香川の郷土料理であるそうめんや天ぷらなど。デザートにどら焼きも作る。30人分の夕食を作るのはなかなか骨が折れる作業だったが、なんとかぎりぎり間に合った。快く場所や



オリエンタルスーパーマーケット



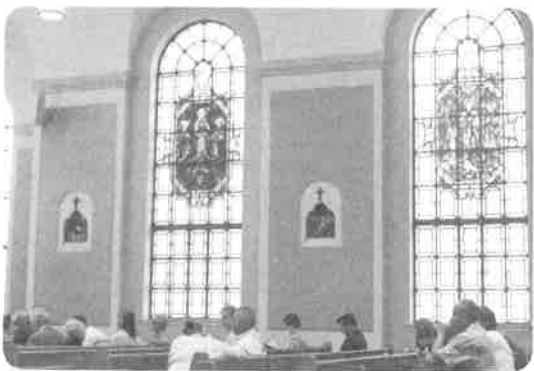
浴衣でおもてなし

道具を貸してくれたジョシュさん一家に感謝。時間が経つにつれ徐々に人が集まってきて、どの人もおいしい、最高だよ、と言ってくださって本当に嬉しかった。一番人気があったのはあんこに生クリームを混ぜたどら焼きだ。気づいたらお皿の上から無くなっていた。また、天ぷらも人気だった。パーティーに来た人達も各自料理やデザートを持ち寄ってくれていた。ある程度落ち着いてからみんなで浴衣に着替え、お茶会をした。まず最初に佐光さんが茶道について英語で説明し、茶道を習っている長谷君がお茶をたて私は出来上がったお茶のお

運びをした。張り詰めた空気の中で行われる茶道に多くの方が興味を示した。ザックは高松で初めて茶道を体験してから大好きになっただけでなく、写真をずっと撮り続けていた。写真を撮っていたのはザックだけではなく、動画を撮っている人もいた。また浴衣が珍しいせいか色んな人に一緒に写真を撮ろうと言われた。家に帰るとウィリアムが私の方を見るなり「とても素敵だね」と浴衣のことを褒めてくれた。そして「その服は、日本では普段着としても着られているの？」と尋ねた。昔の人は普段着として着ていたよ、と答えると顔をしかめて「クーラーがない時代に？とても暑そうだ！」と言われた。着替えてからウィリアム、ショーンと色々な話をした。途中、テイラーが加わり、姉妹二人の成績の話になった。テイラーが苦笑いをしていた。成績の話をする時の親と子の反応は日本でもアメリカでも同じようだ。よく考えたらこんなに長い時間、ジョンソン夫妻と話したのは初めてだ。今日1日でジョンソン家のことがたくさん知れた。やっと色々なことに馴染めてきたのに滞在期間の半分が終わってしまった。残り少ない時間を大切にしよう。

7月30日(日)

今日は待ちに待ったホストファミリーデー。今朝は少し早起きして、クロエと一緒に教会に行った。昨日の朝も行ったのだが、開いていなかった。今日は教会の扉が開いていたので、中を少しだけ見学させてもらった。長椅子やパイプ、ステンドグラス、パイプオルガンなど、まるで本の中に出てきそうな光景がそこにあり、カメラを手放すことができなかった。教会では週に一度、日曜日にお祈り



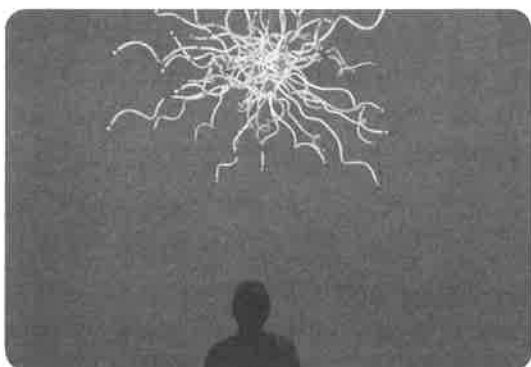
教会にて

をする日がある。歌を歌ったり聖書を読んだりたくさんのお祈りをするので、私もいくつかに参加した。その中でも私の心に残ったのは隣の人と握手し、挨拶をする時間だ。「おはよう」「元気?」「最近どうしてる?」そんな会話が至る所から聞こえてくる。その友好的な雰囲気はセント・ピーターズバーグの人々のフレンドリーさを象徴しているようだった。昼からはブッシュガーデンという遊園地で遊んだ。前々から行く話を聞いていたので楽しみにしていた。私達研修生3人とザック、それにザックのガールフレンドのジェシカと行った。前

日にジョンソン夫妻が渡してくれていたチケットをちゃんと持っていることを確認し、車に乗り込んだ。ブッシュガーデンで楽しい時間を過ごしたので着いてから帰るまでは一瞬のように感じた。広場でパフォーマーと一緒にダンスを踊る人、ロックのライブにすごい角度のジェットコースター。お昼にはザックのお父さんが作ってくれたピーナッツバター・ジャムサンドをみんなで頬張った。途中雨が降り、アトラクションに乗れないかもしれないと思ったが、すぐに雨は止んだ。みんなで楽しかった、

また行きたいと口々に感想を言いながら車に乗った。ジョンソン家に到着し、扉を開けた瞬間に、大勢の人が見えた。クロエが、私達がブッシュガーデンに行っている間にプールパーティーの準備をしてくれていた。様々なアクティビティーを用意してくれていた。パーティーの中で私の一番好きな遊びはツイスターというゲームだ。指示された両手両足の中のどれかを、指名された色の枠に乗せるというゲーム。そこにクロエが色枠の上にカラースプレーを吹きかけていたのでみんなの足や手はカラフルな色に染まっていた。高松に来ていたもう一人の研修生、ジェネーとの再会も果たせた。その後部屋で荷物のパッキングを始めた。一晩では終わりそうにないので少しずつ片づけるつもりだ。黙々と作業をしていると、クロエとその友達がおやすみの挨拶を言い部屋に来た。友達は今日、家に泊まるらしい。ちょうどあらかた整頓された頃に入ってきてくれてよかった。

7月31日(月)



幻想的なチフリー美術館

セント・ピーターズバーグに来て1週間たった。今日は市街壁画を見に行く予定だったのだが、小さなハリケーンが来たので、残念ながら中止となった。朝食を済ませクロエと私はダウンタウンに行った。着くころには少し雨も弱くなっていて、ふたりで公園の真ん中にあるとても大きな木に登った。クロエが買っていたお茶をふたりで分けて飲んだ。カップにはGreen teaではなくMatchaと書かれていた。日本の抹茶は浸透しているのだなと思った。昼からチフリーコレクションへ行った。ガラス彫刻家のディル・チフリーの作品

が多数展示されている。私はプロのカメラマンになった気分だった。光に反射して輝く美しい作品はどんな撮り方をしてもとても芸術的に映るのだ。夢中になって何枚もの写真を撮った。直接目で見るよりカメラ越しに作品を見つめていた時間のほうが長いかもしれない。ガラスの作品を十分満喫した後は2度目のビーチに行った。雨は完全に止み、空から光が差していた。綺麗な貝殻を拾って、日本はどちらにあるのかという話をした。どうやら日本は海の水平線の向こう側にあるということではなさそうだったが、このビーチから見える海もどこか他国に繋がっていると考えるとその広大さにちょっと感動する。帰り際、砂浜に「MIHO MISAKI MOTOKI → 2017」と私達研修生の名前が描かれているのを見つけた。私が海で遊んでいる間に枝で描いたらしい。もうすぐ終わりがくるような気がして、なんだか寂しくなる。この文字がいつまでも消えずに残ってくれることを願おう。今日の夕食は長谷君たちと湖の近くのキャンプ場の様な所でホットドックを作って食べた。ザックのお父さんが「アメリカではホットドックを4個食べるのが普通なんだ」と言ったのでそんなに食べるのかと驚いていた。「冗談だよ、さずがに多すぎる」と笑っていた。焼き立てのウィンナーの挟まったホットドックはとても美味しかった。食事の後、みんなで少し遊んだ。私はクロエと一緒にハンモックに寝転がっていた。公園が閉まるぎりぎりの時間までのんびりして、帰り際にアイスクリームを買って帰った。



砂浜の上の名前

8月1日(火)

今日がホストファミリーと過ごす最後の日。庭のプール、壁にかかった絵画、それにルナとココ。慣れて来たセント・ピーターズバーグ市を離れるのは寂しい。今日はずっと心待ちにしていたダリ美術館見学の日で、朝からずっと浮足立っていた。クロエと手早く朝食を済ませ、いざ車へ。車の中で何度もかけられたクロエのお気に入りの曲の一つはすっかり頭に染みついている、サビの部分位なら歌えるようになっていた。美術館のガイドは現地連絡員のプランタムラさんがしてくださった。日本にいた時からダリに興味を持っていて、ある程度彼の作品の特徴を知っていたつもりだったが、実際に作品を見ると驚かされてばかりだった。一つ一つの作品に深い意味が複雑に織り込まれていて、圧倒された。ダリの独特な世界観にいつまでも浸ってられるような気分だ。作品を見終わった後は、いつものようにお土産コーナーへ。大好きなダリの作品がモチーフにされているグッズがたくさんあったので少し買いすぎてしまったような気がするが、悔いは残らない買い物できた。ダリの世界を満喫した後はみんなでカヤックをした。ザックのカヤックは空気を入れて膨らませるタイプのもの。空気入れを足で踏み空気を送る作業が



ダリ髭の前で

案外楽しかった。カヤックに乗るとき、バランスが安定せずぐらぐらと揺れたのは少し怖かったが、クロエが笑って支えてくれたのでどうにか体を縮めて乗り込んだ。1つのカヤックに3人乗って、オールは2つ。クロエ、私、佐光さんが交代しながらオールで漕いだ。カヌーに慣れているクロエが漕ぐと驚くほどすすい進んだ。オールで漕ぐのは特に腕を鍛えているわけでもない私にとってはなかなかハードだったが、自分の好きなように船を操縦できるのはとても楽しかった。雲ひとつない快晴だった



カヤックボートの上から

たが、オールで水面をすくったときに飛び散ってくる水とカヌーの進む勢いによる風で、ちょうどいい気温のように感じる。オールを握っていないときは日傘を差しながらずっと写真を撮り続けていた。ときどき水の中に手を浸けてみたりもした。マングローブでできた小道を通るときは、日傘がなくても十分涼しいくらいに木が日光を遮ってくれていた。マングローブの根にはたくさんの牡蠣の貝、殻幹には蟹がいた。暫くして、カヤックがマングローブのゴツゴツした根に乗り上げて、破けてしまった。座礁してどうなることかと思ったが、親切な大人の人がモーターボートに乗せてくれた。船の上で日本から来ていることを伝えると、「アメリカを楽しんでね、少しぐらいの危険な冒険も味わいながら！」といい、そのあとすぐに「冗談さ、安全な滞在になることを祈るよ」と笑っていた。岸に着くとザックのお父さんがほっとした表情で私たちを迎えてくれた。ザックから連絡を受け、仕事帰りに駆けつけてくれたらしい。夜はSPIFFS主催の送別会に行った。SPIFFSはセント・ピーターズバーグに住む世界各国の人々の団体で、様々なイベントを開催したりしている。ホストファミリーが見てくれている中、最後のプレゼンテーションをした。その後、パフォーマンスとして長谷君と「花は咲く」を歌った。緊張のあまりミスが多かったが、心を込めて歌ったということが伝わっていただければいいなと思った。その後ドイツとブルガリアの民族舞踊が披露された。どちらの民族衣装も踊りも初めて目にしたが、ほかの国の文化に触れる機会がめったにないのでとてもいい体験になったと思う。会場にはみなさんが持ち寄った各国の料理が並んで

いた。サリーを着た女性に勧められたインドのカレーピラフは、何度も水が飲みたくなるほどの辛さだったが、食欲をそそるものでとてもおいしかった。また日本のおでんもあり、懐かしい出汁のしみ込んだ味に、ほっとした。デザートを食べっているとクロエが私の席までやってきて、1冊の本をくれた。表紙には私とクロエのツーショット、そして「MISAKI'S TRIP TO SAINT PETE(ミサキのセント・ピーターズバーグの旅)」という文字。思いがけないサプライズに言葉が出なかった。滞在中に出会った友達、行った場所、すべての思い出が詰まっている本。色々な所で撮った写真がたくさん貼られていて、最後のページにはクロエから私へのメッセージが書かれていた。きっと一生で一番の宝物になるだろう。帰宅してから部屋に入るとベッドの上に地方紙2種類とアメリカ全土の新聞が置かれていた。ショーンとウィリアムからの贈り物だ。実は先日、アメリカの新聞を見たかったのでショーンに



お揃いの服でプレゼンテーション

持っているか尋ねると、ジョンソン家はテレビでニュースを観るらしく新聞は取っていないということだった。帰りに空港で買おうと思っていたら、わざわざ買ってきてくれていたのだ。1階に降りてすぐにお礼を言った。サプライズ好きで本当にやさしい家族と離れたくなくて少し泣きたくなったが、最後まで笑顔で過ごしたかったのでぐっと我慢した。その後少し思い出話をして、これからも交流できるようにとお互いの連絡先を交換した。私がサンケンガーデンで買ったノートの1ページ目がジョンソン家の住所になったことがとても嬉しかった。

私の家の住所を書くとき、手元に紙がないから紙皿に書いてくれる？とウィリアムに言われたからお皿に書いていると、後ろで二人が紙皿を大事にしまわなきゃリビングの壁に飾るべきかと話していて、思わず笑ってしまった。2人におやすみ、と告げてから部屋に戻った。明日の朝は早い。正直起きられる気がしなかったので、一晩中ホストファミリーへの手紙を書いたり、荷造りしたりしていた。

8月2日(水)

朝早くに家を出た。今日はショーンさんがプレゼントしてくれたシャッフルボードTシャツを着た。手紙や折り鶴などちょっとしたプレゼントをキッチンに置いてきた。サプライズ好きな彼らに向けた私からのサプライズだ。私を見送るために家に来てくれていたクロエの親友と3人で車に乗ろうと扉を開けたら、突然ルナが後ろから走ってきて車内に飛び込むように乗り込んだ。好物のブルーベリーを用意して外に連れ出そうとしてもなかなか出て来なかった。最後にお別れをしようと一緒に来たかったのかな、と思うと寂しいやら嬉しいやらで、ルナとあとから歩いてきたココを存分に撫でた。移動中の車内は、いつものように賑やかだった。3人で歌を歌い、冗談を言い合って笑いながら空港へ向かった。最後のお別れは、泣きそうにはならなかった。私達らしくずっと笑って別れの挨拶をしてハグをした。お見送りには来ることができなかったウィリアムとショーンに、滞在中、お世話をしてくださった感謝の



かわいいココ



笑顔でさようなら

気持ちを伝えなかったため、伝言も託した。クロエが高松に滞在していた10日間と、私がセント・ピーターズバーグに滞在していた10日間を思い出すと、本当に色んなことを経験、勉強させてもらったと思う。今回出会ったすべての人にお礼の気持ちを何度も何度も伝え、必ずいつか会おう、そしてできる限り毎日連絡を取ろうと約束して出発ゲートへ向かった。後ろ歩きで最後まで手を振り続けた。シカゴで日本への飛行機が飛び立つ直前まで、クロエとまた会おう、ありがとう、気を付けてね、と連絡を取り合った。最後に飛行機の中での自分達の写真を送ってから、日本へ飛び立った。

8月3日(木)



11日ぶりの高松

10日間の思い出が詰まったスーツケースを引いて外に出ると家族みんなが迎えに来てくれていた。私達を見つけてお帰りと言われたと思ったら、こっちを向いてと、たくさん写真を撮られた。飛行機に乗っている間は家に着いたらすぐ寝ようと思っていたが、久しぶりに会った弟が写真を見せて欲しいと言ってくるのを見て、一気に脳が覚醒した。早く、旅の思い出を伝えたい。忘れることはないだろうけど、記憶が新鮮なうちに。

感想文



高松第一高等学校 1年
西坂 美咲

10 日間で見つけたこと

セント・ピーターズバーグでの滞在は私を大きく成長させてくれました。1日1日、たくさんのごことを経験し、勉強し、これまでの人生の中で一番輝いた10日間になったと思います。

その中でも特に私が多くを学んだのは、現地の人とのコミュニケーションからでした。まず、自分の英語力の未熟さです。教科書で勉強した日常会話だけでは、正直会話は成り立ちませんでした。英会話の経験が殆どない私にとって、ネイティブスピーカーの話す英語は耳に慣れず、聞き取れないことが多かったです。また、何かを話してもその後が続かない、ということもありました。何度も聞き返し、何度も答えを頭からひねり出すことでやっと会話が成立します。学校で習う文法だけではなく、語彙力、そして英語を聞き取る力がグローバル社会の中で必要になってくることを実感しました。

また、国際交流をするにあたり、まだまだ自分の周りの文化をよく知らないことに気付かされました。私は日本に住んでいるから日本のことは分かっていると思っていました。しかし現地の方の日本に関する質問に困ることが多く、考え方を見直すきっかけになりました。今回現地で紹介した香川の伝統織物である保多織に対しても、プレゼンテーションをすると決まったその日まで殆ど知識が無かったのです。現地へ行く前から国際交流をするなら自国の文化を知っておく必要があるということは知っていましたが、ここまで分からないことがあるとは思っていませんでした。

他にも現地の方の積極性、友好的な接し方、自分を強く持っているということなど、様々なことを見て学び、同時にこれらのことを今後自分に足せていけたらと思いました。自分が体験した失敗したこと成功したことも含め、これらの経験を有意義に生かしていきたいと思います。今後この貴重な機会を通して見つけた高松市とセント・ピーターズバーグの魅力を高松市の人達とシェアしていこうと思います。これから先も両市の関係がより親密になることを願います。

親善研修生 報告書 III

日誌・活動記録

香川県立高松高等学校1年 長谷 元起

7月24日(月)

早朝の高松空港で記念写真を撮り、両親や見送りの方々に別れを告げた。初めての渡米である。セント・ピーターズバーグ市で10日間、果たして英語で自分の思いを伝えられるだろうか、不安と期待が渦巻いていた。羽田空港では同じ研修生の佐光さんがパスポートを高松へ置いて来てしまったため、ここで一旦別れて現地で再会となった。羽田からシカゴまで約12時間のフライト。シカゴ空港はとてつもなく広く、動く歩道で移動した。その歩道は、行く先が見えない程長かったが、天井のネオンは印象的で、まるでアートのようなようだった。



シカゴ空港内での移動

乗り換えの長い待ち時間に空港で昼食を取った。アメリカで初めて口にしたのは、マクドナルドのハンバーガーだった。セットについてくる飲み物が大きくて驚いた。そして、こういう驚きが沢山待っていると思うとさらに現地で研修が楽しみになってきた。シカゴからセント・ピーターズバーグ市の最寄りの空港、タンパ空港までは約3時間。タンパ空港ではホストファミリーやセント・ピーターズバーグ市役所、SPIFFS(セント・ピーターズバーグ国際民族会)のスタッフや現地連絡員の方達が出迎えてくれた。私のホストファミリーは、アンドリュー一家。ホストブラザーのザックは私と同じようにセント・ピーターズバーグ市からの親善研修生として高松に来ており、我が家に9日間滞在したばかりだった。私はザックとの再会を喜んだ。そして10日間のセント・ピーターズバーグでの生活が始まるんだと心が弾んだ。空港からホストファミリーの車でセント・ピーターズバーグ市内まで移動した。途中ザックが家族の紹介をしてくれた。ホストファーザーのジムは牧師で、ホストマザーのジャネットは難民を受け入れる仕事をしている、ホストシスターのゾーイはイタリアのサマースクールに行っていたので残念ながら会えなかった。アンドリュー家は最近、同じセント・ピーターズバーグ市内の、北部の新居に引っ越したばかりで、ハンモックやファイアーピット(BBQコンロ)を



アメリカのショッピングモール

新設したのがご自慢だった。その後ザックが車を運転した。高松にいたときに運転免許証を見せてくれたり、自分自身の車を持っていることも言っていたので来る前から知ってはいたが、自分より1歳上の高校生が目の前で実際に運転しているのが少し不思議だった。車の中でザックと頑張って英語を話したが、自分の言いたいことが上手く伝わっていない気がしてならなかった。その時、「怖がらずに英語を話せばいいよ」とザックに言われ、少し心が軽くなった。夕食を食べにレストランに寄った。同じ研修生の西坂さん、ザックと同じく

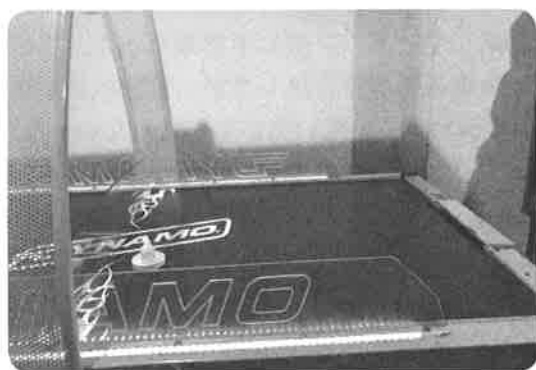
セント・ピーターズバーグ市からの研修生であり、西坂さんのホストシスターであるクロエと一緒にピザを食べた。ピザは日本のものよりも大きく、味がしっかりついていて美味しかった。ピザを食べ終わると、ザックの友人のイーサンの家に行った。自己紹介をしたり、日本について話をしたりした。

その後ザックの他の友人達と一緒に出掛けた。ザックたちがよく行くアイスクリーム屋に行った。アイスクリームは種類も多く、試食もできた。カップに自分でアイスを絞り入れ、トッピングも自分でして、値段は重さで決まる。アイスクリームを食べながら、日本語で「いただきます」などのあいさつを教えたり、高松の気候について話したりした。「高松は晴れの日が多くて、とくに夏には降水量が少ない」と説明した。ザックはちょうど梅雨の時期に日本に滞在していたので、少し疑問に思ったかもしれない。家に着くと、荷物は先に部屋に運ばれていた。ジムとジャネットから家について説明を一通り受けた。家族は殆ど朝にシャワーを浴びるらしい。私は夜にシャワーを使わせてほしいといったら快く了解してもらえた。飛行機の中での話などをして部屋に入ったら、移動の疲れのせいか、すぐに寝てしまった。

7月25日(火)

朝、時差ボケのためか早く起きてしまった。ジムが朝ごはんの準備をしていた。一緒に朝ごはんを食べながら、ここで過ごす10日間、何を楽しみにしているのかなど色々聞かれてたくさん会話することができた。ジムは仕事が朝早くからあるらしく、ご飯を食べ終わったらすぐに出掛けた。その後、暫くしてザックが起きて、一緒にショッピングモールへ行った。途中で西坂さんとクロエとも合流した。ショッピングモールの建物は大きく、内部も広々としていた。午前中だったからか、

客はあまり多くなかった。通路は、日本の倍近くあり、通路中央には色とりどりのカップケーキなどを売るワゴンが並んでいた。また、通路に置いてあるソファでは携帯電話の充電ができるようになっていた。日本とは違う所があり、見て回るだけでも楽しかった。午後は市役所へ行き、市長のリック・クライスマンさんからセント・ピーターズバーグ市の説明を受けた。私達が市の特徴を聞くと、丁寧に説明して下さった。また、高松市については、両市の気温は同じ位なのかという気候の話や街並みについて質問を受けた。お土産の漆器のお盆やガラスで出来た鳥の置物を渡すと、「Beautiful!」と言って喜んでもらった。工芸品の技巧や色使いに驚いていた。市長表敬終了後、国際交流委員会の方の前で高松市についてのプレゼンテーションをした。今年度私達は高松市の紹介として高松藩主の松平家ゆかりの地や伝統工芸品を紹介することにした。私は「玉藻公園」の紹介をした。「玉藻公園」によく花見に行ったり、被雲閣でのお茶会には何度も参加した。特に去年はお点前をした思い出の場所だ。松平家の歴史と共に桜御門跡、被雲閣、古式泳法などの紹介をした。公園には他にどんな施設があるかなどの質問もあり興味深く聞いてくれていた。終了後、拍手をもらえて嬉しかった。プレゼンテーション



映画館にあったエアホッケー



市長表敬

ションが終わると、そのまま国際交流委員会の会議を見学した。近くのキューバについて、高松市以外の姉妹都市との交流活動についてなどであった。会議が終ると、国際交流委員会の方達と、クッキーとお茶を頂いた。クッキーはカラフルなアラザンがたっぷりついたクッキーと、チョコチップクッキー。お茶はグリーンティーと書いてあったが、紅茶のような味だった。国際交流委員の方が発表したプレゼンテーションについて色々聞いてくれたり、褒めて下さって本当に嬉しかった。市役所を出るとジムとジャネットが迎えに来てくれた。

家に着くと、ジャネットが夕食に鳥と野菜のスープを作ってくれた。優しい味付けで美味しかった。ザックは海の家の皿洗いのアルバイトに行っていた。夕食後、ジムとジャネットは、映画館に連れて行ってくれた。映画のチケットを買い、進んでいくと、ゲームセンターや売店があった。そこでジムとジャネットと、エアホッケーで遊んだ。ジムは「ジャネットにはいつも負けるんだ」と言いながらとても楽しそうだった。映画は、「猿の惑星 聖戦記」を観た。まだそのときは日本では公開されていなかった。面白かったが、英語を聞き取ることに集中して、疲れてしまった。映画が終わった後、面白かったかどうか聞かれた。面白かったと答えたら、2人は安心したと言っていた。後から理由を聞くと、戦闘的なシーンが沢山あったから不快でなかったか心配だったらしい。その後3人で家に帰った。

7月26日(水)

今日は野球観戦の日だ。セント・ピーターズバーグ市にある野球場、トロピカーナフィールドを本拠地とするタンパベイ・レイズの試合を見に行った。ザックの友達と待ち合わせ場所に車でいった。西坂さんや昨日現地に到着していた佐光さん、ホストファミリーも揃って観戦した。球場に入る前には手荷物検査があり驚いた。また、スタジアムには屋根があり、冷房が効いていた。昨年、親善研修生として高松に来ていたウィルがこういう球場は暑い気候のフロリダにしかないと教えてくれた。そして、応援の仕方の違いにも驚いた。日本ではずっと



トロピカーナフィールドにて

と立って応援歌を歌っている印象が強くあるが、アメリカでは座ったままの静かな応援だった。応援団もその日は見られなかった。試合が終わり、日本の応援の仕方とアメリカの応援の仕方が違うことをみんなに伝えるとどっちが好きかを聞かれた。私はアメリカの方が落ち着いて好きだと伝えると日本の方が面白そうだという意見も多かった。その試合は見事タンパベイ・レイズが勝利した。球場を後にして、みんなでカフェレストランへ行った。私はマックアンドチーズをパンで挟んでいるものを注文した。マックアンドチーズとはマカロニをチーズソースと合わせたグラタンのような食べ物で、アメリカで人気の食べ物だ。ザックが高松の自分の家で作ってくれた料理でもある。その時、私は美味しくておかわりをした程だ。運ばれ



マックアンドチーズサンドイッチ

てきたマックアンドチーズには山盛りのポテトが添えられていた。味が濃いと感じたが、全部美味しく、食べ飽きることは全くなかった。その後、ジョンズ・パスという海岸にある観光施設に行った。色々なお店が立ち並んでいた。橋の上から見る海はとてもきれいで、海上バイクなどのレジャー施設もあり、自分も体験してみたいなと思った。その後、クロエの家に移動し、プールで遊んで、みんなと楽しい時間を過ごした。家に帰って、ハリーポッターの映画を見たが、疲れていたのも、途中で寝てしまった。



ジョンズ・パス

7月27日(木)

今日はセント・ピーターズバーグ歴史博物館へ行った。昔の風景や人々の絵、奥には当時使われていた家電用品やベンチ、郵便局を再現した展示物があった。ギネスに認定されている野球ボールのコレクションもあり、日本人の名前を探すのが楽しかった。特に印象に残った展示物は「アリゲーターガール」だった。人々に本当にいると信じられていた架空の生き物で、ワニの体に女の子の頭が乗っていた。サーカスの宣伝に使われていたらしい。他にもミイラや昔の飛行機などの展示物も沢山あり、興味深く見学することができた。ただ、ガイドの方の話す英語のスピードについていくのが大変だった。その後、外へ出て、少し街を散歩した。海の景色がとても綺麗だった。歴史博物館で海上施設の歴史の説明もあったが、この素敵な街並みも様々な歴史を経て作られたんだなと思うと、感慨深かった。また、セント・ピーターズバーグ市には市外壁画があちらこちら点在しており、その時にもいくつか作品を見ることができた。来週の市外壁画見学が楽しみだと思った。その後は研修生、ホストファミリーみんなでレストランへ



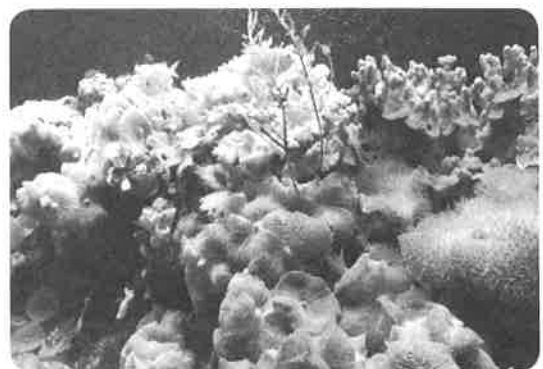
サイン入り野球ボールコレクション



セスナ機の前で

行き、昼食会となった。レストランは小さな飛行場の前にあり、セスナ機の離発着を間近で見ることができた。ザックが操縦者の方に直接お願いして、セスナ機の前で写真を撮らせてもらった。昼食が済むと、ザックはアルバイトに行かなければならなかった。クロエが西坂さんと私を水族館に連れて行ってくれた。水族館は単なる海洋生物の展示にだけではなく、アミューズメントパークのようだった。テーマ別にエリアが分かれ、それぞれ全く違う雰囲気を持っていた。色とりどりのサンゴも沢山あった。セント・ピーターズバーグ市はサンゴの保護活動もしているとクロエが言っていた。クロエは小さいころこの水族館に両親とよく来ていたそうだ。たくさんの思い出がこの水族館にはあり、大好きな場所だと言っていた。その後、セント・ピーターズバーグ市に隣接している都市、タンパを見て回った。タンパ大学やお洒落なカフェや本屋などに行った。タンパ大学の南棟は昔タンパベイホテルというリゾートホテルだった。風格と威厳のある建物で、今では Henry B. Plant Museum という博物館として使われている。カフェでは抹茶がメニューにあり、驚いた。自分自身が茶道をしていこともあって、日本の抹茶がそこまで浸透しているのかと嬉しく感じた。また、公園を散歩していると、日本では見たこともない筋トレ用の遊具が設置されていて、興味深かった。その後、夕食を食べに行った。夕食はクロエの家族と一緒に食べた。スペイン料理のお店で、とても美味しかったけれど、やはり量は多かった。食事中、クロエとお父さんが政治やアメリカの大統領について議論を始めた。その様子を見て、高校生でこんなに真剣に自国のことを考えていることが凄いなと思った。帰宅すると、ジムとジャネットが待っていてくれた。こちらでも同じことが話題になった。その時私は、日本人は政治への関心度が低いと思った。特に若い世代である。私自身も高校生であると

行き、昼食会となった。レストランは小さな飛行場の前にあり、セスナ機の離発着を間近で見ることができた。ザックが操縦者の方に直接お願いして、セスナ機の前で写真を撮らせてもらった。昼食が済むと、ザックはアルバイトに行かなければならなかった。クロエが西坂さんと私を水族館に連れて行ってくれた。水族館は単なる海洋生物の展示にだけではなく、アミューズメントパークのようだった。テーマ別にエリアが分かれ、それぞれ全く違う雰囲気を持っていた。色とりどりのサンゴも沢山あった。セント・ピーターズバーグ



水族館のきれいなサンゴ

市はサンゴの保護活動もしているとクロエが言っていた。クロエは小さいころこの水族館に両親とよく来ていたそうだ。たくさんの思い出がこの水族館にはあり、大好きな場所だと言っていた。その後、セント・ピーターズバーグ市に隣接している都市、タンパを見て回った。タンパ大学やお洒落なカフェや本屋などに行った。タンパ大学の南棟は昔タンパベイホテルというリゾートホテルだった。風格と威厳のある建物で、今では Henry B. Plant Museum という博物館として使われている。カフェでは抹茶がメニューにあり、驚いた。自分自身が茶道をしていこともあって、日本の抹茶がそこまで浸透しているのかと嬉しく感じた。また、公園を散歩していると、日本では見たこともない筋トレ用の遊具が設置されていて、興味深かった。その後、夕食を食べに行った。夕食はクロエの家族と一緒に食べた。スペイン料理のお店で、とても美味しかったけれど、やはり量は多かった。食事中、クロエとお父さんが政治やアメリカの大統領について議論を始めた。その様子を見て、高校生でこんなに真剣に自国のことを考えていることが凄いなと思った。帰宅すると、ジムとジャネットが待っていてくれた。こちらでも同じことが話題になった。その時私は、日本人は政治への関心度が低いと思った。特に若い世代である。私自身も高校生であると



元高級ホテルだった博物館

という甘えがあっただけか、今まであまりにも自国の政治に興味心であったように思う。彼らの議論する姿勢を見て、そのことを反省し恥ずかしいと思った。他にも日本の天皇や宗教、特に仏教について聞かれた。私の父が僧侶であることをジムとジャネットも知っていたので仏教についての質問が多いのかと思ったが、実は、ジムはホスピスの牧師さんであることを知り、納得した。日本の仏教には多くの宗派があり、それぞれの宗派によって拠り所とするお経、また教義も違うことを説明した。天皇制についても尋ねられた。日本の天皇は国の象徴とされているが、アメリカにはそのような存在が無く、珍しいようだった。また、ジャネットの難民の受け入れの仕事について話した。とてもいい仕事だなと私は思った。ジャネットの人にやさしい包み込むような雰囲気は職業柄なのかと思った。パソコンで統計資料を調べながら話していると、日本の難民の少なさにジャネットは驚き、「日本だと失業してしまうわね」と笑っていた。

7月28日(金)

今日はセント・ピーターズバーグ商工会議所で2回目のプレゼンテーションをした。商工会議所の職員の方やフランスから来ていたインターンの人達やホストファミリーなどが集まってくれていた。緊張したが、1回目の発表の時よりも上手く出来た。みなさん私達のプレゼンテーションを熱心に聞いてくれていた。発表後、私が紹介した古式泳法について、何故書道をしながらか泳いでいるのか、また歴史についての質問もあった。フランスからのインターンの人達と会話をした。フランス人から見るアメリカの食に対する意見が私達と違うことが分かった。色々な角度からの考え方や物の捉え方を知ることができた。その後、サンケンガーデンズという植物園に行った。入り口には高松市との姉妹都市の記念碑があった。色々な種類の植物があり、それらは大きくて、圧倒された。日本の植物園によくあるような人工的な



商工会議所でのプレゼンテーション

温室がなく、亜熱帯気候を生かした、自然そのままな印象を持った。川が流れていて、鯉が泳いでいた。奥に進むと、オウムやフラミンゴもいた。高松で滞在していたザックとクロエは栗林公園の方がきれいだと言っていたが、栗林公園とはまた全然雰囲気が異なっていて、比べることはできないと思った。それぞれに、それぞれの良さがあるのだ。サンケンガーデンズを出て、クロエの家へ行った。そこでクロエとザックがお昼ご飯を作ってくれた。「スーパーグリーンライス」といって、ズッキーニを麺状にしたものを、炊いたお米とソースを混ぜて食べる料理だ。美味しかったが、お米は日本のものとは少し違う細長い米だった。昼食後、1ドルショップへ行った。そこは日本の百円ショップとは少し違っていった。内装は地味で商品の種類も少ない印象を受けた。クロエやザックは高松滞在中に何度も百円ショップに行っていた。日本の百円ショップはお店も大きく、明るく、品揃えも豊富だったからだと思う。その後、ミラーレイクという池に行ったり市役所



サンケンガーデンズの滝

近くにある赤い椅子のオブジェを見たりした。景色が本当にきれいで、何処に行っても写真を撮りたくなった。夕方からシャッフルボードに参加した。研修生やホストファミリーが集まった18時頃には、日中の暑さが少しだけ和らぎ始めたが、まだ明るかった。シャッフルボードは地面にラインが引いてあり、長いスティックでカーリングのようにディスクを滑らせて、止まった場所の得点を競うゲームだ。高齢者の方に人気のスポーツと聞いていたが、たくさんの若い人達もシャッフルボードを楽しんでいた。とても楽しかったが、如何せん力加



赤い椅子のオブジェ



シャッフルボードのステージ

減が難しく、上手く出来なかったので少し悔しかった。もっと練習して上手になりたいと思った。セント・ピーターズバーグシャッフルボードクラブのTシャツを頂いて、会員のような気分になった。家に帰ってジャネットの手料理を食べた後、裏庭でスモアを食べた。スモアは、マシュマロを火であぶって、チョコと一緒にクッキーで挟んで食べる野外の定番お菓子だ。西坂さんもいて、みんなで話しながら食べた。ジムとジャネットの馴れ初めを聞くなどして楽しく、素敵な夜になった。

7月29日(土)

午前中は特に予定が無かったので、少し遅めに起きた。ホストファミリーと車でランチを食べに出かけた。人気のお店らしく、到着した頃には既に沢山の人がいた。大きなプレートにオムレツ、パン、チーズのポタージュのようなものがたっぷり添えられていた。美味しかったが、量はやはり多くて、少し残してしまった。帰りに雑貨店に寄った。お土産物も沢山あった。その他にはおもちゃや、ポストカード、キーホルダー、セットになった鉛筆が大量に売られていた。その中には本物の銃も売られていた。ジャネットは悲しい文化だと呟いた。日本では銃の保持は禁止されているがアメリカでは州によって異なる。フロリダ州では銃の所持は許されているのだ。帰りのドライブ中、道路の車線が大変多いことに気が付いた。片側4車線で8車線もあったのだ。日本より1本1本の道路の幅も広く、やはり規模が違うなど驚きを隠せなかった。車の中では日本の自動車会社の話になった。ジムとジャネットはホンダの車に乗っていて、「日本の車はいいね」と言ってくれた。携帯で日本の自動車会社と車種を調べると本当に多くて驚いてしまった。ザックはフォードの車に乗っていた。日本人からしてみると逆に、フォードも憧れのアメリカ車なのだが…。その時雨が降った。セント・ピーターズバーグ市に来て初めての雨だった。1年のうち晴れの日が平均361日あるといわれるサンシャインシティ、セント・ピーターズバーグの雨だ。こちらに到着して以来ずっと晴れの日が続いていたので、流石にそう言われるだけのことはあるなと思った。午後はホストファミリーや国際交流委員の方々をお招きして香川の郷土料理を振舞うパーティーを開催した。まず、私達は現地にあるアジア食品を扱うスーパーマーケットに集合し、材料を購入した。



美味しかったランチ

鶏肉や野菜などを買った。珍しいものではドリアンが売られていた。想像通り異臭を放っていた。買い物の後パーティー会場へ移動した。国際交流委員会のメンバーの方の家が会場となっていた。台所もリビングも広がった。メニューは小豆島のそうめん、ちらし寿司、天ぷら、唐揚げ、どら焼きだ。30人分を黙々と作った。準備時間が短く、大変だったが、皆さん喜んでくださった。日本料理に大変興味を持ってくださった印象を受けた。終盤、お茶会をして抹茶を振舞った。このお茶会は、今回茶道を習っている私の一つの大きな任務だ



日本食パーティー

と思っていた。抹茶自体は広く知られるようになったが、茶道となると、まだまだ認知されていない。だから、抹茶を茶釜で点てて、飲むという抹茶本来の飲み方を広く紹介したかった。西坂さんに手伝っ



茶道披露

てもらって、御所籠を使ったお点前を始めると帛紗さばきなど、興味深く見てくれた。後で、一連の動作はどんな意味があるのかと聞かれ、「道具を清めるためだ」というと「儀式のようだったよ」と言われた。神聖な宗教儀式のように見えたようだった。短い時間ではあったが、手ごたえを感じた。お茶が美味しいと言っただけなのが何より一番嬉しかった。今後は「茶の湯」という言葉も広めていきたいと思った。最後は佐光さんが書道を披露した。日本、香川の文化が上手く伝わっていることを心より願った。

7月30日(日)

今日はホストファミリーデーである。私達研修生3人とザックと、ザックのガールフレンドのジェシカの5人でブッシュガーデンという遊園地に行った。ザック達が高松で滞在しているときから一緒に行こうと言われていたので、凄く楽しみにしていた場所だ。時折降る雨のせいで、何度かジェットコースターが停止することがあったが、色々楽しむことが出来た。屋内でザックの好きな1980年代のミュージカルを見たり、動物ショーを見たりした。ブッシュガーデンには、動物園のように色々な動物もいた。ゾウやチーター、ワニ、ペンギンもいた。水



ブッシュガーデンの入口

槽には沢山の魚もいて、日本にはない種類の遊園地だった。昼食はザックとジムが用意してくれていたサンドイッチやブラウニーを園内で食べた。ブッシュガーデンをとっても満喫することができた。次にみんなでクロエの家に向かった。クロエは一日、私達の為にパーティーの用意をしてくれていた。買い物をして、飾りつけをして、沢山の友達を呼んでくれていた。知らない人も沢山いて、初めは緊張していたが、みんな気さくでいい人達だった。ピザを食べたり、水風船で遊んだり、洗剤でビニールシートの上を滑ったり、夜のプールで遊んだり、暗くなっても友達は増えていった。パーティーの定番のスモアも作って食べた、友達も出来て、アメリカの高校生の生活を沢山知ることが出来た。家に帰っても眠れず、ザックやジェシカ、ジャネットとポップコーンを食べながら今日の楽しかったことを話した。

7月31日(月)

今日は本来ならガイドの方による市外壁画巡りの予定だった。しかし早朝からトロピカルストームと言う小さい台風が来た為キャンセルになってしまった。楽しみにしていたので残念に思った。雨が弱まるのを待って、クロエと西坂さんと一緒に朝ごはんを食べに出かけた。お薦めのパンケーキを頼んだが、朝ごはんとして食べるには私には少し甘すぎた。朝食後、ザックが通うレイクウッド高校に行った。今は夏休み中でクラブ活動が行われていた。マーチングバンドクラブの練習はコーチが大きな声で指導していた。階段を上った先にザックのギタークラブがあった。教室の備品倉庫を見てみると沢山のギターが置いてあって驚いた。みんな楽しそうに活動していた。雰囲気良く、顧問の先生も面白い人だった。実際はもっと部員がいるらしいが夏休みだからあまり参加できていないと言っていた。数人でギターを弾いてくれた。本当に上手だった。高校見学の後、クロエが西坂さんと私を「チフリー美術館」に連れて行ってくれた。ガラス作家のデイル・チフリーの美術館である。こちらに来る前に大学でガラス工芸を学んでいる私の姉に、チフリー美術館を訪れることを告げると、凄く羨ましがられた。「これってガラス？」と思うくらい面白い作品が沢山展示されていた。作品は本当に美しく、写真をたくさん撮った。何度も見返してその度に感動した。カラフルな作品の間を歩いているとどこか違う世界に迷い込んだような気分だった。何度も訪れたいと思える場所の1つだった。その後、海岸へ行った。砂が綺麗で、色々な珍しい貝殻があったので、沢山拾った。日が差ししてくると、海の色が一層鮮やかになって綺麗だった。海岸探索のあと、別の海辺にも行った。その海辺で、ザックの叔父さんや、従妹達もやって来てクックアウトの用意をしてくれた。ジムがウインナーを焼いてそのウインナーをパンで挟み、チリソースや、ケチャップ、マスタード、ザワークラフトを添えて食べた。本当に美味しくて、4本も食べた。4本は流石に多かつたらしく、みんなによく食べるねと言われてしまった。その後、クロエの家に花火をしに行った。花火は日本の物の様に噴き出すタイプではなく、金属の棒に火薬がついていて、回したりして楽しんだ。スーパーマーケットで買ったアメリカンドリームという味のアイスを食べた。大好きなアイスクリームをたっぷり堪能した。帰宅し、ホストファミリーと話して夜を過ごした。祝日の話になり、アメリカではクリスマスが一番大切な祝日だと言っていた。日本はどうかと聞かれて、人によるけど、正月かなと答えた。宗教的な要素もあると思うが国によって文化や習慣が違うのでそれぞれ大切にしているものが違うのだろうと思った。一通り話し終わった後に、ホストファミリーからガラスのお土産を貰った。「Paris London Tokyo St.Pete」と書かれているガラスだ。お土産物店で気になって手に取って見ていたのを覚えていてくれたのだ。本当に嬉しかった。残り1日しかない。その1日を大切に過ごそうと思った。



朝食のパンケーキ



ザックの通っている高校

な楽しそうに活動していた。雰囲気良く、顧問の先生も面白い人だった。実際はもっと部員がいるらしいが夏休みだからあまり参加できていないと言っていた。数人でギターを弾いてくれた。本当に上手だった。高校見学の後、クロエが西坂さんと私を「チフリー美術館」に連れて行ってくれた。ガラス作家のデイル・チフリーの美術館である。こちらに来る前に大学でガラス工芸を学んでいる私の姉に、チフリー美術館を訪れることを告げると、凄く羨ましがられた。「これってガラス？」と思うくらい面白い作品が沢山展示されていた。作品は本当に美しく、写真をたくさん撮った。何度も見返してその度に感動した。カラフルな作品の間を歩いているとどこか違う世界に迷い込んだような気分だった。何度も訪れたいと思える場所の1つだった。その後、海岸へ行った。砂が綺麗で、色々な珍しい貝殻があったので、沢山拾った。日が差ししてくると、海の色が一層鮮やかになって綺麗だった。海岸探索のあと、別の海辺にも行った。その海辺で、ザックの叔父さんや、従妹達もやって来てクックアウトの用意をしてくれた。ジムがウインナーを焼いてそのウインナーをパンで挟み、チリソースや、ケチャップ、マスタード、ザワークラフトを添えて食べた。本当に美味しくて、4本も食べた。4本は流石に多かつたらしく、みんなによく食べるねと言われてしまった。その後、クロエの家に花火をしに行った。花火は日本の物の様に噴き出すタイプではなく、金属の棒に火薬がついていて、回したりして楽しんだ。スーパーマーケットで買ったアメリカンドリームという味のアイスを食べた。大好きなアイスクリームをたっぷり堪能した。帰宅し、ホストファミリーと話して夜を過ごした。祝日の話になり、アメリカではクリスマスが一番大切な祝日だと言っていた。日本はどうかと聞かれて、人によるけど、正月かなと答えた。宗教的な要素もあると思うが国によって文化や習慣が違うのでそれぞれ大切にしているものが違うのだろうと思った。一通り話し終わった後に、ホストファミリーからガラスのお土産を貰った。「Paris London Tokyo St.Pete」と書かれているガラスだ。お土産物店で気になって手に取って見ていたのを覚えていてくれたのだ。本当に嬉しかった。残り1日しかない。その1日を大切に過ごそうと思った。

本当に美しく、写真をたくさん撮った。何度も見返してその度に感動した。カラフルな作品の間を歩いているとどこか違う世界に迷い込んだような気分だった。何度も訪れたいと思える場所の1つだった。その後、海岸へ行った。砂が綺麗で、色々な珍しい貝殻があったので、沢山拾った。日が差ししてくると、海の色が一層鮮やかになって綺麗だった。海岸探索のあと、別の海辺にも行った。その海辺で、ザックの叔父さんや、従妹達もやって来てクックアウトの用意をしてくれた。ジムがウインナーを焼いてそのウインナーをパンで挟み、チリソースや、ケチャップ、マスタード、ザワークラフトを添えて食べた。本当に美味しくて、4本も食べた。4本は流石に多かつたらしく、みんなによく食べるねと言われてしまった。その後、クロエの家に花火をしに行った。花火は日本の物の様に噴き出すタイプではなく、金属の棒に火薬がついていて、回したりして楽しんだ。スーパーマーケットで買ったアメリカンドリームという味のアイスを食べた。大好きなアイスクリームをたっぷり堪能した。帰宅し、ホストファミリーと話して夜を過ごした。祝日の話になり、アメリカではクリスマスが一番大切な祝日だと言っていた。日本はどうかと聞かれて、人によるけど、正月かなと答えた。宗教的な要素もあると思うが国によって文化や習慣が違うのでそれぞれ大切にしているものが違うのだろうと思った。一通り話し終わった後に、ホストファミリーからガラスのお土産を貰った。「Paris London Tokyo St.Pete」と書かれているガラスだ。お土産物店で気になって手に取って見ていたのを覚えていてくれたのだ。本当に嬉しかった。残り1日しかない。その1日を大切に過ごそうと思った。



クロエの家で花火

8月1日(火)



ダリ美術館のチケット

わりに案内してくれた。私達のことを考えてくれているのが伝わってきて本当に嬉しかった。セント・ピーターズバーグ市には個性的な絵が街の至る処にあって、写真を撮らずにいられなかった。全部は見るができなかったのもっと見たいと思った。CDショップへ行き、ザックが薦めるCDを一枚買った。自分が元々大好きな曲も入っていたアルバムでもあったので大切にしたいと思う。その後、お昼を済ませ、ウィードンアイランド保護区へカヤック体験をしに行った。ザックがずっと勧めてくれていたのがやっと実現した。美しい自然の中、カヤックを漕ぎ進めていくと、マングローブの太い幹が迫って来た。カヤックに穴が開くなど、ハプニングもあったが、忘れられない思い出になった。その日の夜、SPIFFSが送別会を開いてくださった。ステージに立ち最後のプレゼンテーションをした。3回目だったが、やはり緊張していた。そして西坂さんと日本の曲「花は咲く」を歌った。10日間の感謝を込め、一生懸命歌った。みんなの心に響くことを願った。その後、ドイツやブルガリアの方の民族舞踊が続いた。色とりどりの民族衣装を身につけ、楽しそう

に時々声を出しながら踊っていた。記念撮影を撮り、持ち寄りのビュッフェ式夕食を食べた。各国の料理が並んでいて日本のおでんもあった。久しぶりの日本食はとても安心する味だった。その後、佐光さんの書道披露があった。「絆」という文字を披露した。セント・ピーターズバーグ市で書くのに



カヤック体験をしたマングローブ

今日はダリ美術館に行った。こちらも楽しみな場所の1つだった。ガラス張りの外観は遠くからでも目を引いた。ユニークで個性的な作品が沢山あった。現地連絡員のプランタムラさんがそれぞれの絵の描いたときの情勢やダリの心境などを交えて説明してくださったので、勉強になった。戦争についての絵やダリの色々な思いが込められた絵が沢山展示されていた。ダリはよくその風貌から奇人のように言われていたが、実は非常に繊細な心の持ち主だと思った。美術館見学の後、この間台風で行けなかった市外壁画見学をザックが代



ザックの市街壁画ツアー

びったりの文字だと思った。様々な国の方と交流をすることができて良かった。送別会が終わり家に帰った。最後の夜なので、ザックが色々な人に会わせてくれた。今までに会えなかったザックの友達にも会うことが出来た。滞在中出会った人達にもう一度会うこともでき、お礼とお別れを言うことが出来て良かった。もうお別れなんだ、帰らないといけないんだ、そう思うと寂しさが込み上げてきた。明日のために荷物をまとめた。楽しかった10日間を思い出に、日本へ帰らないといけない。明日が来ないといいいのにと考えた。

8月2日(水)

早朝に起きてタンパ空港へ向かう。タンパ空港6時23分出発の飛行機である。ジム、ジャネット、ザックが見送りに来てくれた。空港までの車の中、外をボーっと眺めながら、セント・ピーターズバーグ市で会った人達のことを思い出していた。みんな優しく、私に接してくれた。初めて知ったこともあったし、認識を新たにしたものもあった。本当に良い経験であった。空港に着くと、ハグをしてさよならを言った。クロエは「いつでも部屋を開けておくから」と言ってくれた。ジムとジャネットにはお互い声を詰まらせてしまった。ザックは「大学で戻っておいで」と言ってくれた。そして、毎日連絡を取り合う約束をした。SPIFFSのロッタさんや各研修生のホストファミリーが見送ってくださる中、タンパ空港を出発した。そして、私のセント・ピーターズバーグ市での研修は幕を閉じた。

感想文



発見

香川県立高松高等学校 1年

長谷 元起

セント・ピーターズバーグ市は「アートの街」と聞いていたが、現地に行ってみると想像を超えるものだった。街全体にアートが活かされていた。瀬戸内芸術祭など「アートの街」になりつつある高松でセント・ピーターズバーグ市にあるダリ美術館やチフリー美術館の作品展示や市街壁画の写真を集めたフォトギャラリーを開催し、もっと「アートの街」セント・ピーターズバーグ市を紹介できればいいなと思った。

現地で日本の習慣・文化についての様々な質問をされた時になかなか答えることが出来ず、自分がどれだけ無知であったかを思い知られた。自国について、また自分自身について考えるいい機会になった。現地の高校生は自国の政治について深く真剣に考えていて驚いた。自分の意見や思いがはっきりと確立していた。そして私の意見や思いを真剣に聞いてくれた。自分の思いを正直に話すことがお互いの理解に繋がったと思う。今まで物事に真摯に向き合うことから逃げていた自分を恥じた。もっと深く物事を捉え、自分自身の意見を持つことが大切だと思った。

今回私は日本文化を伝える為茶道を披露した。その場にいた人は真剣にお点前を見入ってくれていた。大好きな茶道に興味を持ってくれたことがとても嬉しかった。日本文化を再認識できたこと、セント・ピーターズバーグや高松の歴史や文化を知ることができたこと、私にとって今回は発見の連続であった。

これからも日本文化を発信し、多くの人達に興味を持ってもらえるようにしたいと思う。また同時に海外の文化に触れ続けていきたいと思う。

